



60  
804



始





福は由

鬼を介



寄贈





大村民蔵著

福は内鬼は外

病床の相談相手

著者

六五  
14. 10. 13  
寄贈

# ゼビ体温計

日、英、佛、伊、墨  
國專賣特許



色わけで熱の程度が  
すぐわかります

価格一本 金貳圓半掛四

東京日本橋區本町  
三井株式会社  
大阪東區伏見町  
日本藥品洋行



大正十二年九月大震災中弊院  
日本赤十字社臨時救護病院編成

大正十二年十一月五日

皇后陛下御行啓

大正十二年九月廿五日

開院宮戴仁親王殿下御台臨  
大正十二年十月廿二日

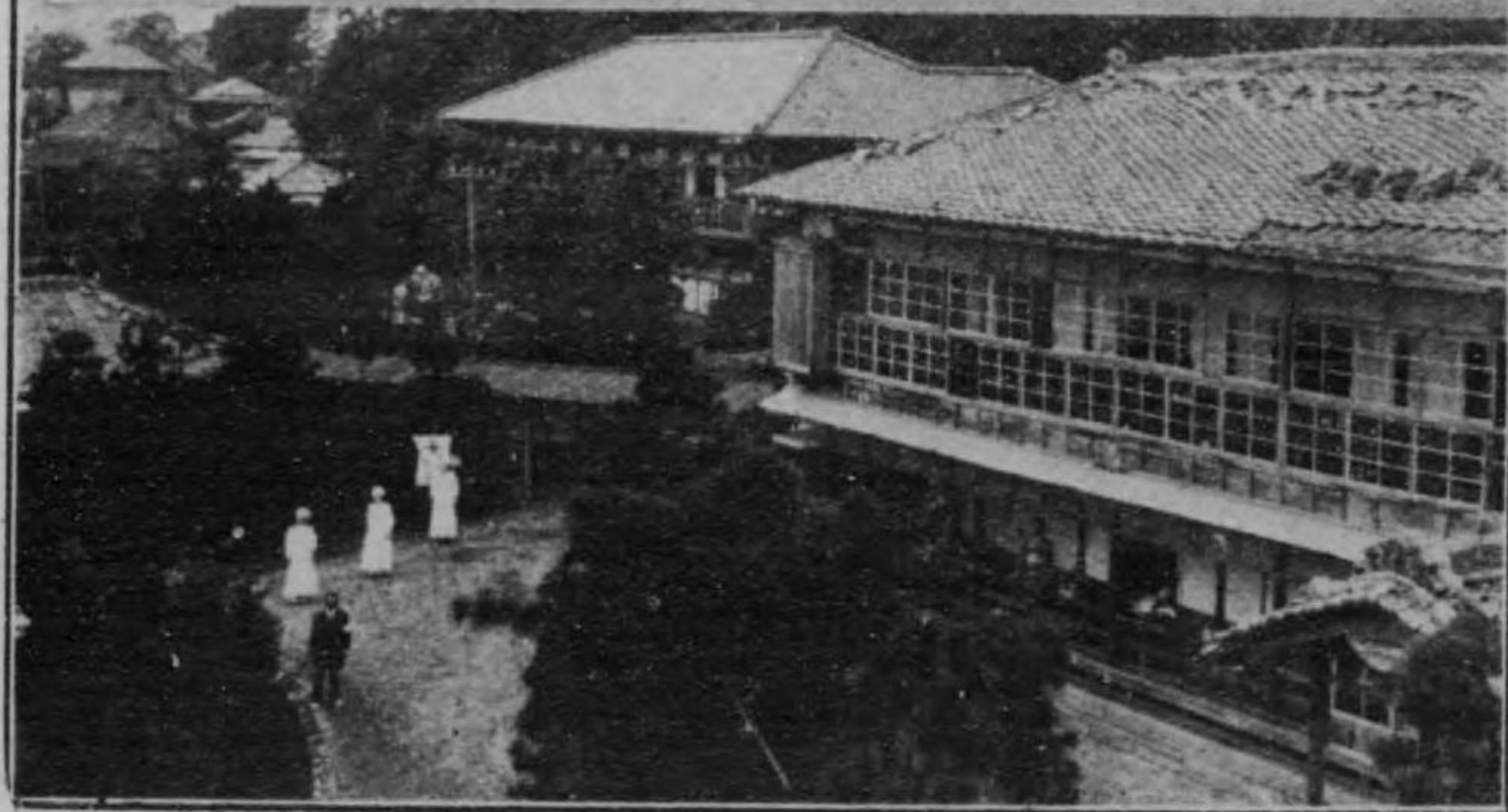
東伏見宮大妃周子殿下御台臨

東久邇宮聰子内親王殿下御台臨

竹田宮大妃昌子内親王殿下御台臨

賜震災傷病者御慰問

癸亥大震災中ニ於ケル  
臨時救護病院タリシ根岸療養院







紀 要

一、横濱市の南端根岸海岸に在り北は山を負ひ南は海に面し氣候温和風光明媚の地

一、明治四十五年五月の創立にて大正十三年四月一日より日本赤十字社神奈川県支部根岸療院と組織改正

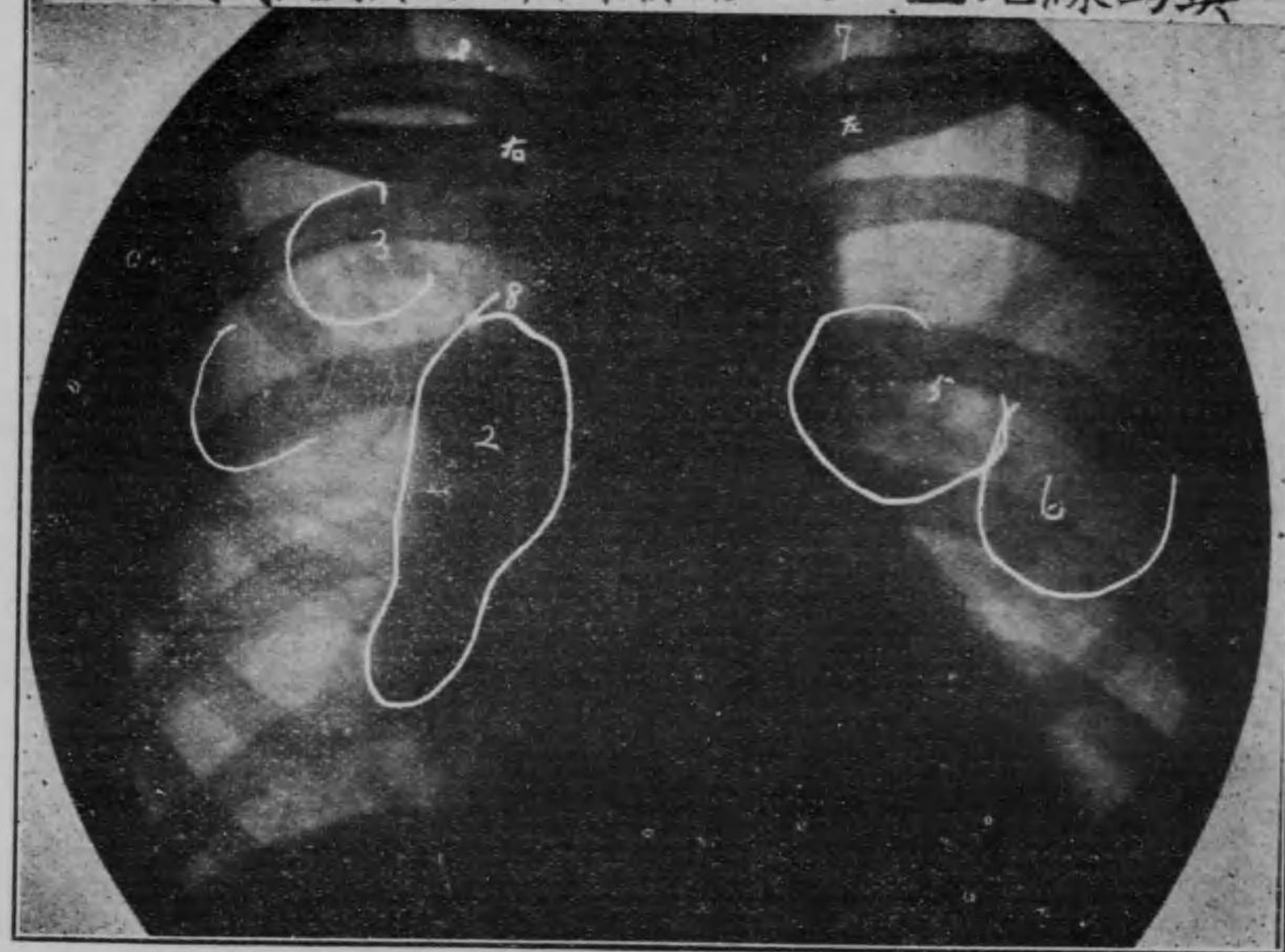
一、土地面積 約二千五百坪  
 一、建物九棟 五百二十五坪  
 一、治療患者 延數約二十五萬人

元 根岸療養院

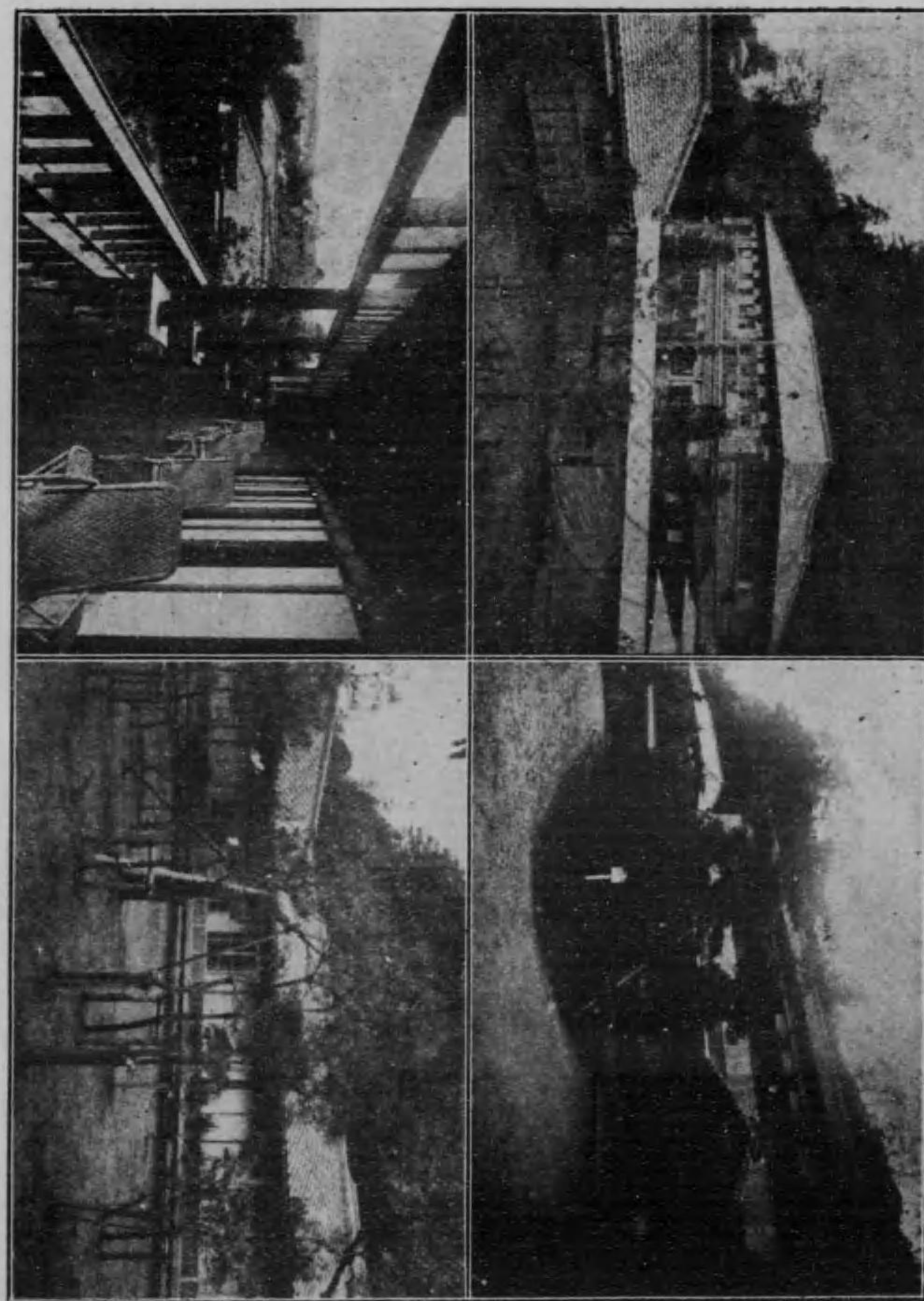




肺臟結核并肺門腺腫大之X光線寫真



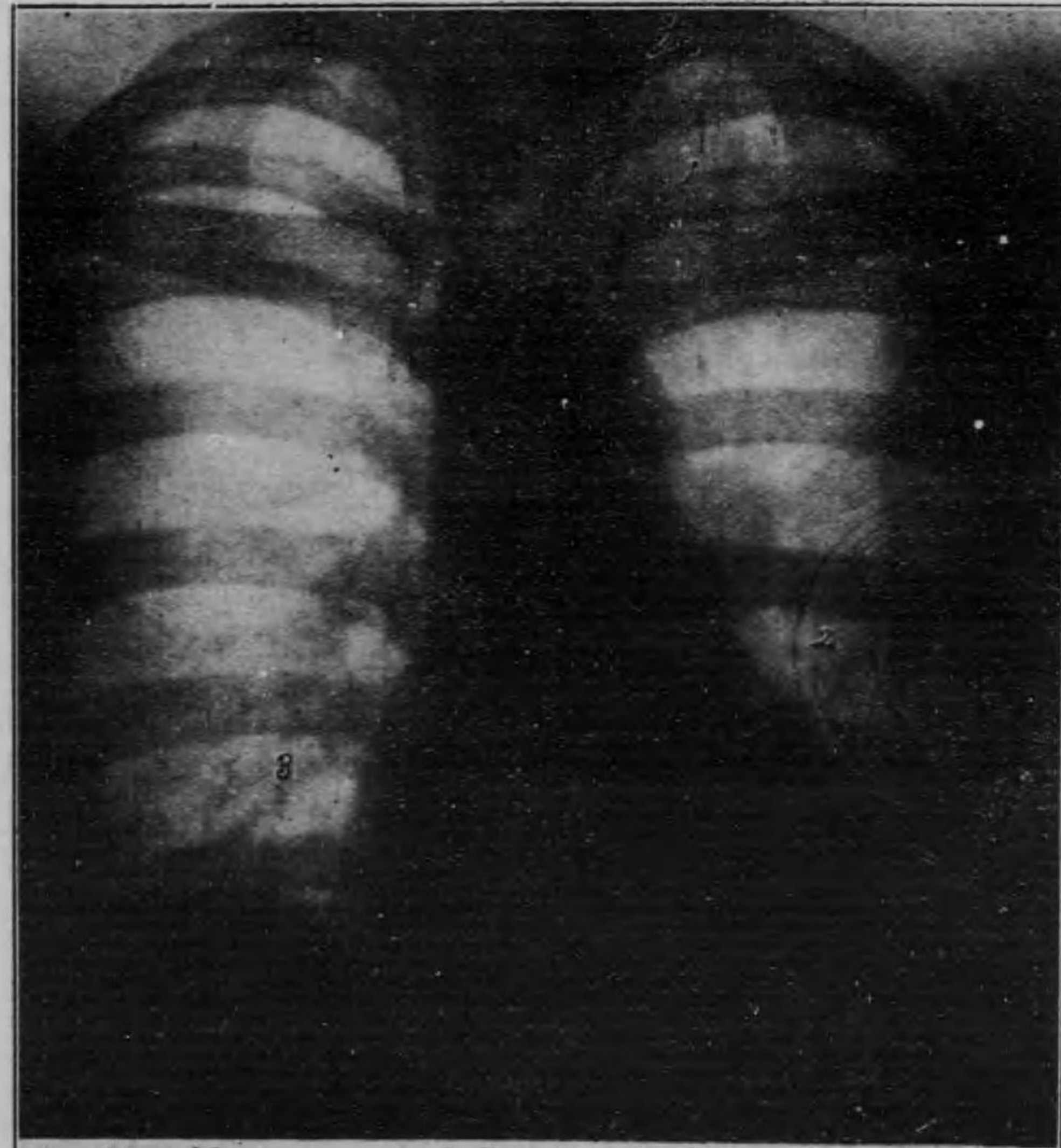
- (7) 肺尖浸潤  
 (6) 中度浸潤  
 (5) 肺門淋巴腺腫大  
 (4) 肺尖浸潤  
 (3) 輕度浸潤  
 (2) 肺門淋巴腺腫大  
 (1) 輕度浸潤
- 圖解





序文

畏友大村民藏君は堅忍不撓の奮闘家で、又眞摯なる經世家である。夙に結核病の惨害の甚しきを見て憂慮措く能はず、根岸療養院を開設し、同患者の診療に献身的の努力を以て従事せられた。余君と深交あり屢同病院を參觀し其設備の整頓せる、注意の周到なると、患者に對し懇篤至らざるなきを見て、常に敬服して居るのである。又其周圍の迫害や、經營の困難に遭遇して、あらゆる辛酸を嘗められたる事情を承知して、幾度か同情の涙を泛べざるを得なかつた。今や同病院も赤十字社に譲られ、其終を全ふせられたるは君の爲め欣幸と



治癒セル肺結核症、X光線寫真

圖解

- (1) 治癒セル病竈ノ痕跡
- (2) 治癒セル氣管支周圍炎ノ痕跡
- (3) 治癒セル氣管支周圍炎ノ痕跡



する所である。

本書は君が十余年間に渉り二十余萬の患者に就て實驗せられたる業蹟の結晶で療養方法の眞髓を得て居ることを疑はない。行文亦極めて平易で、説明も亦叮嚀であるから、同患者の指針として誠に適當のもので、其裨益する所決して少なからざるを信ずる。余は茲に双手を舉げて此書を江湖に推薦し、其慶福の普及を祈るのである。

大正十四年十月

北里研究所副所長

醫學博士 北 島 多 一

### 自 序

「福は内鬼は外」これは節分の時に唱へる言葉であります。諸節分とは立春の前夜で「せちぶん」にも申し其の晩を年越ともいひます。これは冬の季節を分れて春の季節に移るこいふ譯で、毎年二月二日か三日又は四日のどちらかになります。此の日に民間では門口に柵の枝と鯛の頭とを挿んで厄除のしるしとし、夕方になると、熬豆を室の中に撒いて、疫病鬼をおひ攘ひます。これを豆打ちとか、豆撒きか云つて居ります。その熬豆を撒く人を歳男と申し、一家の元締をしてゐる者が相勤めます。先づ三方の上に柵を載せて、禮服着用にて、こ



れに熬豆を入れ、室の中で歳徳神の方角に向つて「福は内」と唱へ、又歳徳神の反対の方に向いて「鬼は外」と唱へて、豆を撒いて福を迎へ鬼を逐ふ。豆撒が終ると、老人も子供も男も女も「厄落し」のためだといふので、自分の歳の数だけの熬豆に年豆を一粒足して食べたり、又は歳と同じだけの熬豆を紙に包んで身體中を撫でて厄をうつしたと考へたり、又は厄拂が「御厄拂ひませう」とながして歩くのを呼んで、これに御鳥目を與へて厄拂ひの言葉を節面白く語らせたり致します。又此の日痰を根絶やしにする呪であるといふので、長蕪菁の葉に自分の名と生年月日を書き、之を懐に入れて寝。明くる朝

之を流し、かうして三年續けると、病氣の根を断るといひ、又熬豆を貯へて置いて、初雷の時に食べると雷除の呪になるといふ云ひ傳へもあります。

抑々節分に熬豆を撒いて疫病神を攘ふことは、追儼の公事から始まり、元は支那から傳つたのであります。追儼は鬼遣とも申し、桃弓、葦矢を以て悪鬼を逐ひはらふ有様をする儀式で、除夜に禁中で行はれましたのが、何時の間にか民間でこれをまねて、節分の晩にする事となつたのであります。彼の戦國時代の連歌師として有名な宗長が記した宗長手記の大永六年(紀元二、一八六)十二月の條に、



二十五日。節分の夜。大豆打つを聞て、

福は内へいり豆の今夜もてなしを

拾ひくくや鬼は出らん

と記されて居ります。

さてこの福や鬼を他の物にたごへて見ませう。金銭にたごへれば、福は儲けて鬼は損となりますし、若し之を人の身體にたとへるなら健康は福で病氣は鬼であります。人間何が貴いと申しても健康より貴いものが他にありませんか。

健全なる精神は健全なる身體に宿る

昔の「ギリシヤ」人も申してをりまして、本當に丈夫な身體を具へてゐない人には、しつかりした堅固な精神が持てるものではありません。

世には立派な頭腦、たしかな腕前を持つて居ながら、身體が弱い爲に十分な活動が出来ず、あたら寶の持腐れといふ様な方が澤山御座います。私はいつても、さういふ方々の境遇を考へますと、其の方々の不幸に同情し、其の方々の御心の中を察し、且又國家經濟の上から觀て眞に慨嘆に堪へませぬ。

余は醫者となりましてから、あらゆる方面に於て結核患者の家庭の悲惨なる狀況や、家族傳染の有様を實見し、誠に同



情の念を禁ずる事が出来ませんでした。そこで余は専心に本  
病の徹底的研究を思ひ立ちました。當時余は未だ弱輩で、微力  
で、而かも妻子や友人等は此仕事を成すに就ては大反対でし  
た。然し夫れにもかかはらず余は明治四十五年五月に結核病  
者の爲にその慰安所として、横濱市の南端根岸海岸の仙境に  
療養院を設立致しました。そして社會の迫害や幾多の困難と  
戦ひながらも、其間に約廿五萬人の患者の症状や心理状態を  
研究し、其の研究の結果を醫學的療法と心理的療法との兩方  
面に應用しましたが、其の成績は甚顯著でありました。

一 昨年の大震災に際しては療養院の被害は幸に少なかつた

ので、之を救護病院として日本赤十字社に譲り渡しました。  
さりながら余は自分の餘命のあらん限り、此の氣の毒な結核  
患者の爲に良い相談相手となつて、微力を盡したいと決心し  
て居ります。その眞心から余自身の實驗しました療養教則を  
書いて、社會の保健衛生の見地から不備ながら之を世に公に  
するここに致しました。大方の諸彦冀くは御批正を賜はら  
んことを

大正十四年九月

元根岸療養院長

大村民藏識



目次

一 結核病が社會に與へる影響……………四

急性傳染病と比較……………六

生産力との關係……………六

國民元氣の消長……………七

二 恐怖時代……………七

肺病患者の嫌はれる理由……………八

三 教育時代……………一〇

(一) 癒る病です……………一〇

(二) 豫防は出来る……………一三

(三) 結核病豫防の二大原則……………一八

(一) 社會に於ける結核菌を撲滅する事……………一八

(二) 結核に罹り易き體質の改善を謀る事……………一八

附たり咯痰の處置と消毒の話……………一九

四 療養方面……………二〇

余の療養教則……………二三

(第一) 自力療法……………二四

自力療法と他力療法……………二四

(第二) 空氣療法……………二六

第一 室内空氣療法……………二六

第二 室外空氣療法……………二八

(第三) 日光療法……………二九

日光療法の標準……………三〇

(第四) 安靜療法……………三一



第一	身體安靜	三三
第二	病竈安靜	三五
第三	精神安靜	三六
(第五)	榮養療法	三七
第一	食物に餘り人工を加へ過ぎる事	四〇
第二	食物に對し好き嫌ひせざる事	四一
第三	食物は第二の口なる胃腸の消化吸収に氣を付ける事	四二
	附上等献立表	四三
	普通献立表	四四
(第六)	精神療法	四五
	病者よりの手紙	四九
	著者の體験	五一

(第七)	藥物療法	五四
	藥物療法の沿革	五四
	對症藥の説明	五八
(第八)	攝生修養	六〇
	實行難の話	六一
(第九)	不迷不撓	六二
	左手に盃右手の徳利の誘惑	六三
(第十)	共同一致	六四
	身體組織の細胞と結核菌との戦	六四
	運動の出来る程度の日課	六六
	病床の相談相手	六九
(一)	病者の慰安	六九



(三)(二)	某病者の手紙	七二
	早期診断と造物主との話	七七
	病名を知らしむる利害	八〇
(三)	第一表 比較的初期に病名を宣告せられしもの	八二
	第二表 咯血並に血痰により自覚せるもの	八三
	第三表 経過中病名を宣告せられしもの	八四
(四)	家庭の理解	八六
	某病者の手紙	八九
(五)	有卦の話	九〇
(六)	治癒時期の算定	九二
(七)	体温の糶賣	九五
(八)	咯血の談	九九

(九)	咯血時の心得	一〇〇
(十)	不眠と巫呪	一〇二
	療養費の問題	一〇五
	私立療養院入院料概算表	一〇七
	療養方針の五大別	一〇八
(一)	余の結核病豫防法に就ての鄙見	一一一
(二)	社会事業として結核患者を收容する植物園を設立する件	一一二
(三)	私立療養院の入院料を低廉ならしめ容易く入院を得しむる件	一一三
	生命保険會社が結核患者收容所を設立するの件	一一三

(目次終り)

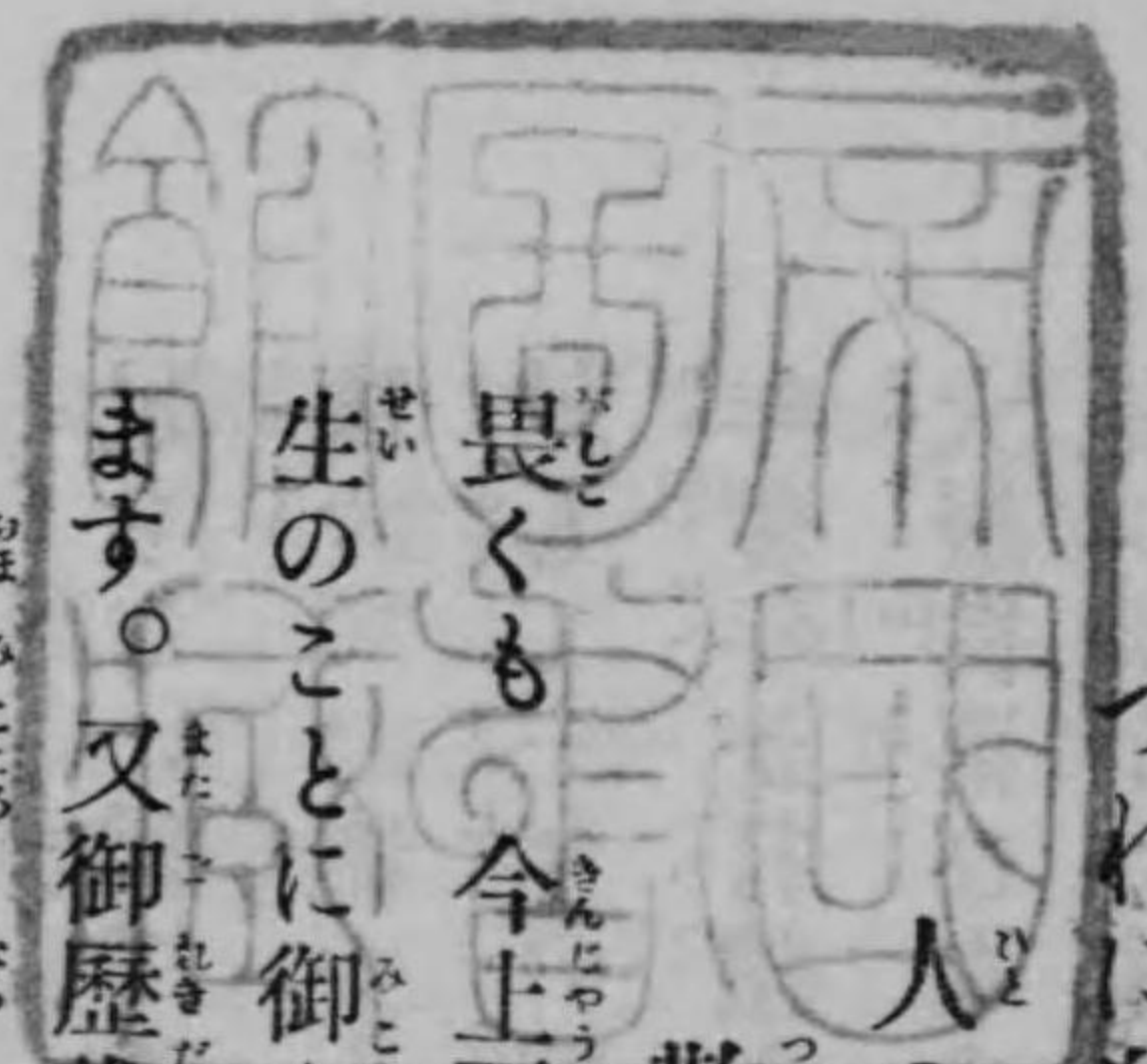


明治天皇御製

つねに身のやしなひ草をつみてこそ

人のよはひはのぶべかりけり

敬白



畏くも今上天皇陛下並攝政宮殿下には、常々國民の保健衛生のことに御心を勞せさせ給ふこと畏しごも畏き極みであります。又御歴代の天皇様も亦民人の衛生については、少からず大御心を悩ませられました事は、國史を繙く者の擧げて枚へ難い程多い事實で、我々國民として一日も忘る能はざる、眞に有難い大君の思召であります。



人皇第十六代仁徳天皇様は、ある日高殿にのぼり四方を御覽になりましたところが、村々から立つかまどの煙が少かつたので、この様にかまどの煙の少いのは、五穀が不作で食物が足りない爲であらう。都近い所でさへ此の通りであれば遠い國々では無かし人々が苦しんで居るであらうと御考なされ、勅して三年の間税を納めることを御免しになりました。後三年豊年が打續き、村々から煙が盛に立ちのぼりましたので、大層御喜びなされて、「朕すでに富めり」と仰せられました。これは畢竟國民が丈夫でよく働いた上に、氣候が順當で五穀がよく稔り、國が富み且榮えたのを、深くお喜びになつたの

であるを推察致します。

就中明治天皇様の國民衛生についての御製は、彼の明治二十三年に下された教育勅語と同様、我等國民は日常拜讀して、身の健康に注意せねばなりません。孝經に曰く「身體髮膚之を父母に受く、敢て毀傷せざるは孝の始めなり」と。このわけ柄から考へましても、我々はよく衛生に注意して國民一同が健康で忠實々々しく働いて、そして、長生をして國利民福を計るごいふことは、眞に忠孝兩全の最捷徑である信じます。

健康は忠孝の基



## ●福は内鬼は外

### 一、結核病が社會に與へる影響

人間が此の世の中へ生れ出てから、幾萬年病氣に對する戦争は一日も休んだことがありません。何千年の大昔から豫防とか治療とかに何程骨を折つて働いたか計り知れません。偕近頃醫學や藥學は實に目ざましい進歩を見ましたが、それでも人類社會から全く病氣を根絶しする事が出来ぬ計りか、却つて國民の體質は年一年と低下して行くといふ反對な奇觀を呈するのは誠に残念な次第です。これは畢竟物質文明の利器が容赦なく自然界を攪亂し、我々に對して極不自然な影響を與へるからであります。

御覽なさい、大空高く煤煙が濛々と上つて居るのは工業の發達を意味し、萬丈の紅塵をあげて大氣を汚濁しつゝあるもの、これ自動車の疾驅で、一面交通機關の

進歩を意味するではないか。思ふに我々が不斷呼吸して居る空氣は、斯ういふ物のために何程不良にされてゐるか、到底測り知ることが出来ません。この様な事で、我々はごうして健康を保ち疾病を未然に防ぐことが出来ませう。近頃結核病が年一年と蔓延する傾向のあるのは、國家の爲め眞に憂慮に堪へぬ次第であります。御承知の通り我が國民七千萬の中數字の上に表示されたものは、これまで結核で死んだ者が年々十一萬位であつたが、最近の統計によると十三萬以上である。併し實際はそんなに少いものではなく、其の以上であらうと確信致します。夫れは何故かと申しますならば、軍隊、學校、工場、刑務所、生命保險會社等の統計では、其れよりも歩合が遙に多いからであります。その他に自分自身だけで肺病患者であることを自覺して世間から病人扱を受けない者、又は自分も他人も知らざる肺病患者が、何程あるか數へきれぬ程澤山あります。假りに死亡者を十四萬人として、普魯西國衛生局長キルヒネル氏の計算法によつて調べて見ますと、我が國



には少くとも百四十萬の結核病者がある譯で、則ち七千萬人の同胞中に百四十萬人の結核病者があれば丁度五十人の中に一人、百人中には二人ある割合となる。

### 急性傳染病と比較

これを急性傳染病と比較して見ると、急性傳染病即法定傳染病に於ては、平均一ケ年八萬人、病氣に罹る中死ぬ者が一萬五千人あり、百四十萬の結核病者の中死ぬ者が十四萬人もある。其の關係を比べて見れば前者は罹病月數を一ケ月とし、後者を三ケ年とすると、急性傳染病一に付結核病六百四十二といふ割合となる。

### 生産力との關係

結核病患者百四十萬人、若し此等の人々が健康で一人に付一日金壹圓の生産力

があるとすれば、一ケ年には五億一千万圓となり、之が反對に一人に付一日金一圓の治療費を要すと考へるなら、其の差は合計十億二千万圓といふ實に驚くべき金高となる譯です。又之を

### 國民元氣の消長

から觀察すると、死亡年齢は十五歳から四十歳までの者が最も多い。して見れば國民の中堅たる壯年者が最も多く侵される事となり、國民の元氣と國防の充實と民族の繁榮とに關して重大な關係を持ち、實に國家の消長に關する重大問題である。

## 國民民福は結核病の豫防にあり

## 二、恐怖時代



昔支那の杞といふ國に大馬鹿者が有つて、今にも蒼天が崩れ落ちて地球上の有り  
とあらゆる生物は絶滅するだらうと、寢食を忘れて怖れて居たと列子といふ書に  
記されて杞憂といふ言葉が作られて居る程である。文明開化の現代に於ても、一般  
の人々は結核病に對しても丁度此の杞憂と同様な恐怖熱に冒されて居る。所謂結  
核病恐怖時代もと申上げませう。茲に七千萬の同胞は等しく目を見張つて肺病々々  
と云うて、非常に恐れ戦いて居ます。結核病を診断する醫者までも、肺病醫者と  
して同様世間から怖れられて居る次第です。偕斯の様に肺病患者が到る處で嫌  
はれる理由は、世間の人々が肺病に對する知識の足らぬ事と豫防の方法とを知ら  
ぬから起る事で、若し眞に肺病を理解し、肺病を學んで之に親しんだなら、左  
程恐るべきものでないと考へられる事と思ひます。何故肺病が此の様に世間から  
怖れられたかと考へて見ますと、是迄の衛生學者が結核病豫防の必要を知らせよ  
うとして、急性傳染病豫防法の様にあらゆる方法で書立て、世人に結核病の怖

るべき事を極端に宣傳した結果、角を矯めて牛を殺したやうに、現今では恰も阿  
片中毒の様に國民一般が恐怖病に冒されて、結核病に對して一種の群衆的神經  
衰弱症を起し、國民の多數が無益に苦しめられて居るのである。そこで世間の人  
々は結核病者に會へば直に傳染するものと思ひ誤り、精神過勞の末、身體が少  
しでも調子が違ふと、最早結核病に罹つたものと即断し、日頃の仕事も何となく  
手につかず無闇矢鱈に澤山の醫者を替へ煩悶に煩悶を重ねてゐるのを度々見受け  
ます。斯様に慢性傳染病を恐怖させて豫防政策を執ることは過の大なるもの  
であると思れます。其の結果は肺病患者並に其の家庭は、社會より非常に恐れ  
嫌はれ、遂には交際まで絶たれ、實に悲惨なる境遇に陥りて居る。之れのみなら  
ず我國の善美たる社會道徳をも脅威せるに至つては誠に慨嘆に堪へぬ次第であり  
ます。若し世間の人々が誤め信じて居る様に、結核菌が一度身體に附いた曉  
には、傳染發病するものとしたならば、恐らく現在地球上には一人の人類の影



も姿も留めて居らう筈は無い。何となれば結核菌は地球上到處に繁殖して居るからである。眞に結核菌を恐れるならば、人跡到らざる深山幽谷に分入り仙人となつて、世人と絶縁する外はない。併しながら吾人は幸にも此の結核菌に對して、天 與の防衛力を持つて居る。例令結核菌が少々位附いても、身體が強健で活動して居れば、中々傳染するものではない。萬一菌が取附いても一部に潜伏して不知不識の間に死滅して、自然免疫を作りて病氣になるものではない。んから、無要の恐怖心を取去つて結核菌を理解することが肝要です。

敵を知るは敵に勝つ所以にして、肺病を知るは之を治する所以であります。

### 三、教育時代

#### (一) 癒る病です

先づ此の結核病は癒る病であるか無いかを調べてみなければならぬ。私は此の問に對して明に療る病であると斷言致します。然らば死ぬのはどうだと反問するでせうそれは死ぬべき理由があるからだ、早く見付けて療養さへすれば必ず癒ると云ふことに就いては、誰も異論は無いと信じます。此の事に就きましては西洋の學者で肺病でない屍體解剖をして居た、瑞西のネーグラー氏は百人中九十七人ブルハルト氏は九十一人、我が帝國大學に於ける統計を見ましても八十一人は前に結核に罹つたことがあるが、其れが癒つて後他の病氣の爲に死んだことになつて居るこの事實から推して見ると、總ての人間は百人の中八十一人から九十幾人までは結核病に罹るといふ證據が現れて居る。私の先輩である草間博士は御自身が研究解剖した所のものを私に話してくれましたが、百人の中七十二人は確に肺病が癒つて居ると明かに言はれました。先年帝國大學の學長青山博士が亡くなられましたが、彼の方は我々が學生時代に先生の右の肺の上葉が悪かつた事は



誰一人知らぬ者は無かつた。然るに先生はあの年まで生きて居て、食道癌腫に罹つて其の爲に死なれたではありませんか。其の解剖の結果を見ても明かに右肺上葉が癒つて居られた。彼の故江原素六翁の如きも御若い時分には重い肺病に罹られました。後壯健になられて、八十歳までも種々國家の爲に活動された。斯の様に癒つて居る人も數澤山ありますが、併し癒つた者は誰一人この事を社會に發表致しませぬ。是が大なる誤解の一であります。畢竟これは世間から忌み嫌はれる爲であります。今五十歳以上になられて居る方々は、嘗て結核病に罹つて不知に癒つた人々も多くある。罹つて癒つた人でなければ五十歳以上は生きられぬ。夫れは丁度昔軽い痘瘡に罹つた者は一番安全で再び痘瘡に罹らぬと同じ様な状態であらうと思ひます。進んでは是から嫁を貰ふにも婿を取るにも肺病に罹つて癒つた人を貰ふが一番安心だと云ふ時機が確に來ると私は思ふ。今は怖がつて居るが、後來は私は其處まで行かなければならぬだらうと思つて居るのであります。

## 豫防は治療に優る

(豫防は教育にあり)

### (二) 豫防は出來る

豫防の必要は獨り傳染病のみではない。普通の病氣にも必要である。例へば大食して胃腸を害ふ人ならば、常に食餌に注意せねばならぬ。況んや傳染病に於ては尙一層注意して患者は勿論、非患者も亦共に社會公衆の爲に嚴守しなければならぬ。偕これを豫防することは餘り困難でないと思ひます。恰も汽車が線路上を走るやうなもので何でも無い。若し汽車が無闇に脱線して他所へ行くとしたならば實に危険で、我々はどうして其の周圍に暮して居る事が出來ませう。線路の有ることさへ知らずに、うか／＼と煙草を喫つたり坐睡をして居るから汽車に轢かれるのである。其の線路を避けて歩きさへすれば、決して災難に罹る筈がない。其の線路の筋道、所謂豫防の方法、手段を患者并に一般人に教育するこ



とが必要である。恰も國家に義務教育ある如く、此の病は急性傳染病の様に短い月日の間に目的を貫徹することの出来ないものであるから、根氣強く丁寧に親切に教へて行かねばならぬと思ふ。夫れに就いて、一體傳染する時期は何時頃かと申しますと、小兒期に傳染して或る時期まで潜伏して居て、それから出て來るのが一番多い。それ故母親に若干家庭衛生の心得がありますれば、豫防位は十分に出來ます。私は皆様が内務省衛生局編纂の『家庭衛生の心得』を是非とも一度御讀み下さる事を御勸致します。

尙ほ大正八年三月二十七日發布された法律第二十六號結核豫防法は、これ迄の法律と違つて誠に親切で人情の籠つた法律であつて、治療の資無き者は無料で入院させ、生活のつかぬ者には生活費の補償を與へ、又消毒等も國家でするといふ法律ですから、主婦たる者は宜く心得て置く必要があります。

偕て結核病で死ぬ人の七割は肺結核である事から考へて、肺病は何から傳染する

のかと調べて見ますと、肺結核患者の咯痰の中に病原菌（結核菌）が有る。此の咯痰の取扱を粗末にした爲に今日の様に大事になつたのである。其の他の結核即ち腸結核や腎臟結核の病菌は糞尿に交つて便壺に入りますから餘り危険はありません。實に恐るべきは咯痰である。一體我が國の人は咯痰を餘り粗末にし過ぎます。何處へでも構はず痰や唾を吐いて平氣で居ます。之は傳染の危険がある許りてなく、風儀の上から申しても悪い事でありませぬ。私は今から五年前或る必要に迫られて、毎朝停車場や工場の附近の路傍に吐き散らされた痰唾の数を調査した所が、驚くべし一町内に平均二十ヶ所から三十ヶ所もありましたので、早速縣衛生當局に申出でて取調べを御願した事がありました。歐米諸國ではこれについて、とても八ヶ間敷取締の法律が出来て居りますが、我邦でも是非作つて戴きたいと思ひます。如何かして子供の時から道路に唾や痰を吐かぬ習慣をつけて貰ひたい。



私は常々咯痰の事を『ダイヤモンド』と申して教へて居るダイヤモンドは至つて高價であるから誰しも大切に取扱ひます。又ダイヤモンドとは爆裂する危険を持つて居りますので、誰も十分注意を致します。實に實に恐るべきは咯痰である。之を粗末にする故に傳染するのである。第一口腔から出す時痰壺に吐くか、紙に取つて直に焼棄すれば何等の危険も無いものを、手や着物又はハンカチに着けて其儘放つて置くから、大問題が起るのである。斯の通り肺病の咯痰中には恐るべき病菌を持つて居る。「ヘルレル」氏の實驗には一回咯出する痰の中に含有する結核菌数は實に三億なりと報告せられてある。それならば患者の口腔内には常に病菌が居るかと思つて見たら、西洋の學者も故 石原醫學博士も口腔内には結核菌が居らぬと報告された。著者も大正八年に入院患者の中、常に咯痰に結核菌を含む三十だけを選び、其の唾液、齒垢、齶齒等の汚物を毎日午前午後の二回宛五日間調べて見たが、一度も結核菌を見出しませんでした。次に

は朝早く起きて未だ顔も洗はず口も嗽がぬ患者を檢べると、一人見當り、それから喉頭結核に罹つた者も一人出ました都合三十人の中に二人だけ見當りました。その理由は一人の患者は口中に痰の一小粒が残つて居つた爲、一人は喉頭結核であつたから勿論居なければならぬ筈であつた。然し乍ら咯痰中には必ず病菌が居るのであるから、咯痰は大いに注意せねばならぬ。夫れから食器に就いて調べてみました。咯痰中に菌の出る結核患者の食器を殺菌食鹽水で洗つて、五日間に三度食事の度毎に檢べた數が三百七十五人御座いましたが、一度も菌を認めませんでした。因て念の爲めモルモットに接種してみたが、これ亦何等の變化も認めなかつた。此等の事實から推して豫防は餘り六ヶ敷ものでないと御考になつてよいと思ひます。從來口腔内にも食器等にも微菌が非常に澤山附着して居る様に宣傳されて居りましたが、此の事實から考へて如何なものかと思はれてなりません。



(三) 結核を豫防するには次の二大原則より外はありません。

(一) 社会に於ける結核菌を撲滅する事。

今日の様に蔓延せる状態ではこの事は不可能であるから、唯將來患者も健康者もお互に道徳を守り道路に唾や痰を吐かぬ様固く守り、自然撲滅を謀る外途はありません。特に患者は外へ出る時には、携帶用唾壺又は新聞紙或は油紙を  
用意して消毒をしたり焼棄することあります。

(二) 結核に罹り易き體質の改善を謀る事。

これは兒童の體育を改善する外はありません。人の母たる者は日頃兒童の體育に注意して、たとひ健康な時でも折々兒童の身長や體重や元氣の消長に氣をつけて成らう事なら一箇月に一回位、少くとも半年に一度位は學校へ行つて、受持の先生に問ひ合せ、又は醫者に診察させて戴きたいものです。特に胸圍の

廣かる様な運動を奨めて、健全な第二の國民の養成にお骨折を願いたい。

眞の國寶は兒童の強健

附たり咯痰の處置と消毒の話

(一) 咯痰は結核病者で有つても無くても、必ず濃厚な洗濯曹達水を入れた痰壺に咯出し、それに熱湯を注ぎ、冷えきつてから便所に投棄なさい。止むを得ない場合には紙で取り、其紙は焼却又は便壺に棄てるのが一番安心であります。

(二) 消毒藥 (十分振盪して使ふこと)

(一) 石炭酸 五・〇グラム 鹽酸 三・〇グラム 水 九二・〇グラム

(二) クレゾール 五・〇グラム 水 九五・〇グラム

(三) 寢具、被服は上天氣の日は必ず日光に晒し、枕被ひ、敷布、掛布及び病人の肌着は一週間に一度づゝ洗濯をする。洗濯の際は熱湯曹達水で消毒せられたれし。



(四) 食器は一切一回毎に總て初めから定めたる「バケツ」に入れ、沸騰せる熱湯を十分注加して冷める迄置けば宜し。釜に全部を入れて煮れば尙宜し。

(五) 居室及什器は必ず毎日雑布掛けをなさるべし。決して掃き出してはなりません。時々昇水、石炭酸水にて拭ふを可とす。雑巾は常に消毒薬に浸し置きなさい。疊建具も時々天日に晒すが宜しい。

### 安全は消毒にあり

### 四、療養方面

結核病の病原體は結核菌は西曆千八百八十二年獨國大家ロベルトコツホ博士の發見によつて世に知られ、隨つて其の傳染の經路及び豫防法も明瞭となり、社會人類に非常な裨益を與へられたが、其の治療方面に至つては恰も闇中物を探すの感があつた。今より二千五百年の其の昔、聖醫ヒポクラテス以來世界のありとある

學者が、この病苦より人類を免れさせんと、藥物を海に山に地球上のあらゆる物質から採集して研究したが、未だに其の彼岸には達せず、又コツホ氏始め幾多の細菌學者は結核菌毒素からツベルクリンや血清を作り、之が治療研究に従事されましたが、未だ其の目的を達することは出来ません。此より先千八百五十四年獨逸のブレイメル氏は、結核病は決して不治の病ではない。必ずや合理的の攝生法によつて治癒すべきものであるとの福音を唱へた。其の當時學者の反對があつたが、構はず衛生榮養法を唱道し療養所を作り、デトワイレル氏等の力によつて、今日の様に自然的療法の治績を擧げることの出来る様になつた。

元來結核病は他の傳染病例へば「チブス」「コレラ」等の様な細菌病と違ふ主なる點は、其の潜伏期の長いことが其の一つであります。

總て人類は小兒期に傳染したものが、體內特に肺門淋巴腺や氣管支腺に潜伏して居り、其の人に生活上のあらゆる條件の備はつて居る間は、其の旺盛な體力



に壓へられて何等の害を與ふるなく、所謂平和時代で、病菌が人體の奥深く潜んで居るだけで、病人としては見受られません。一定の年齢に達し、其の個人が肉體に精神に生活條件に變動を生ずると、例へば入學難、生活難女子に於ては妊娠、分娩等の境遇の變化が起れば、今まで無害であつた結核菌は勃々と其の頭を擡げ、猛威を奮つて戰鬥を開始し、主客所を異にして反對の結果病人となるのである。

現今の如く生存競争の激烈なる時に當り、特に都市の如き不良の環境にある社會状態では、肺病の増加は免れ難い次第である。

私は此の際老婆心ながら一言申添へて置きます。都市とは狭い土地に全國民の五分の一が集、中せる所で、環境が不良の位置に置かれて居るので、或る意味から申すと肺病患者の養成所である。そこで農村の青年は國家成立の上よりも經濟上よりも健康上よりも農村を捨て、都市に趨る事は大いに考慮せねば

なりません。

其の二は結核菌の害毒は他の傳染病と違つて、千差萬別で人の面が遠く通り其の病狀が違ひ、千人が千人、萬人が萬人別で、「チブス」「コレラ」の様一定の範圍内ではありませぬ。例へば毒素を動物に接種するも、其の現はれる病狀は同一の物はありません。右様の次第ですから、現代に於ては肺病患者の體内に於ける結核菌を撲滅させる徹底的の特効薬は一つも無い。それ故に療養法を遵守して、確固不拔の一大覺悟心と對症薬の應用とを唯一の治療方針として進むべきものである。

併しながら此の療養教訓も萬人に通ずる不變不動のものではありません。其の人の個性によつて多少の取捨撰擇の要あるは勿論である。茲に私の療養院に於て永年應用した療養教訓に就いて説明致しませう。

### 余の療養教訓



- 一、自力療法
- 二、空氣療法
- 三、日光療法
- 四、安靜療法
- 五、榮養療法
- 六、精神療法
- 七、藥物療法
- 八、攝生修養
- 九、不迷不撓
- 十、共同一致

(第二) 自力療法

昔から俗に四百四病と申しまして疾病の數を限つて居りましたが、現代の醫學から申せば非常な數に上りませう。併し此等總ての病を治療するには自力療法と他

第一の自力療法

の物に餘り倚賴せず完全なる養生法と對症的藥劑の應用とにより、漸次體質

の改善を計り、病毒に對し身體組織の原始細胞の戰鬪力を増進させて、治療の傾向を促すべきものである。

結核性疾患に於ては白血球の喰菌作用の働きを高め、漸次治療に向はせるもので、現代に於て唯一の治療法であります。他に徹底的の特殊療法が確實に見えられざる限り、氣長の様ですが、あせらずに落ち着いて、不迷不撓の一大覺悟を以て自力的養生すべきです。最近新聞紙上に現はれた丁抹國「コペンハーゲン」のメルガード教授の報告せられたといふ金の化合劑の化學療法も、可能性のものであるや否や餘程考へる餘地があると思ひます。萬一成功される日が來ても本病は環境病とも云はれるものであるから、療養教則の價値は永久に失はれる譯がありません。丁度宗教で申しますと自力本願であつて、即ち自己の信念によつて無我の域に入り、解脱するもので坐禪と同じです。

第二の他力療法は他力によつて治療する病です。例へば腫物に外科的に手術を行



ひ、又は實扶的里に「ジフテリヤ」血清注射をして治療する様なものです。是は徹底療法で假令周囲の衛生状態に不良點がありましても餘り關係がありません。所謂親鸞上人の他力本願である。併し乍ら兩者何も絶對的のものではなく、所謂相對的のものであります。

## (第二)空氣療法

茲に空氣療法と申しますが、それには二つの意義を持つて居ります。一は室内空氣療法で、一は室外空氣療法です。

### 第一の室内空氣療法

元來呼吸器病者にとつては室内の沈滞積せる不良の空氣は治療上の禁物です。要は新鮮なる空氣で肺を洗濯する事なのです。皆さん白い汚れた布を濁水で幾年洗濯することも舊の様に白い奇麗な布となります。まい。水道の奇麗な水で石鹼を使つて洗濯したならば、奇麗になる様に、肺を新

鮮な空氣で二六時中洗濯して、總ての害物を排泄するのは最も治療の法に適つた方法と信じます。

處が我が國に於ける一般家庭の習慣は、冬期兒童が少しでも風の吹く日に外で遊ぶと、夫れ風を引くと常に風を恐れる習があります。私は可愛い子には旅をさせよといふ諺と同様に、可愛い子には風を當てよと申したい。

此の習慣からして一朝病氣に罹ると、直に障子を閉める癖が多い。私は之に對して『閉めれば腐る』といふ標語を用ひて教訓して居ます。

併しながら新鮮の空氣交換と空氣流通とを混同してはならぬ。小路の様な風の吹き曝しは所謂風邪に罹る處がありますから悪い事は無論です。

要するに室内の空氣は新鮮純良なものでなければなりません。故に夜となく晝となく春夏秋冬戸障子を閉め切らずに、適宜の方法、たとへば枕頭子、枕屏風等を立置き、常に開放して新鮮な空氣で洗濯する事が肝要である。而して夜間換



氣を致しますことも決して悪い理がありません。併し冷氣の關係は相當注意せねばならぬ。(開放空氣療法)

第一の室外空氣療法は理想としては北に山を負ひ、南は海に面し、風無き所謂無風地帯で、其の上松樹の繁茂せる間に終日終夜屋外の寢椅子の上に静臥せしめ、なるべく頭部直射光線を避け身體表面は固より冬期には手、足、頸部、頭部殊に身體を十分に温熱し、呼吸は口を堅く結んで緩き鼻呼吸のみをさせます。斯くすれば嚴冬の候にあつても、決して感冒に罹るものではありません。鼻腔から多量に入る空氣は通過する間に十分加温されて、決して吾人が想像するが如く寒冷の空氣が直接に氣管や肺に達するものではありません。

然し此の室外静臥空氣療法は實行に際し餘程慎重の態度を持し漸を逐うて戸外の空氣に慣れさせる事が必要でありまして、初めは三十分間、一時間と漸次に時間を延ばし、途中故障の起らぬ様注意して、凡そ一ヶ月位費して、終日戸外に居ら

せる位の程度に進めば、大した過は無からうかと思ひます。

自宅治療では餘程の勇氣と熱心が無くては却々に實行は難かしいのです。

### 清き空氣で洗濯

### (第三) 日光療法

日光が動植物界に與へる絶大なる恩恵は申すまでもない。特に紫外線の科學上に於ける効用は其の最たるもので、本病に規律的に此光線を作用せしめると偉大な効があります。之を行ふには季節に應じて其の時間の長短を加減する必要がありませぬ。我が國に於ては夏季は日光が強いので、到底日光浴には適しません。日光浴は案外強烈な作用を起して折々血痰、咯血を誘因することあり、殊に特異質の人は直接でなくとも着物の上から日光に當つた丈でも咯血する人もある程



です。其の他心悸抗進を起して動悸が烈しくなり、神経が興奮して夜分眠れなくなり、又は發熱する様な人は日光浴をしては害があります。夫れ故日光浴は大いに慎重な態度で行はねばならぬ。特に急性進行型の者には勿論宜しくありません。茲に日光浴療法標準を左に表示す。

日	時	部位
第一日	5分	足
第二日	10分	足
第三日	15分	足
第四日	20分	足
第五日	25分	足
第六日	30分	足
第一日	5分	下肢
第二日	5分	下肢
第三日	5分	下肢
第四日	5分	下肢
第五日	5分	下肢
第六日	5分	下肢
第一日	5分	上肢
第二日	5分	上肢
第三日	5分	上肢
第四日	5分	上肢
第五日	5分	上肢
第六日	5分	上肢
第一日	5分	腹部
第二日	5分	腹部
第三日	5分	腹部
第四日	5分	腹部
第五日	5分	腹部
第六日	5分	腹部
第一日	5分	胸部
第二日	5分	胸部
第三日	5分	胸部
第四日	5分	胸部
第五日	5分	胸部
第六日	5分	胸部
第一日	5分	背部
第二日	5分	背部
第三日	5分	背部
第四日	5分	背部
第五日	5分	背部
第六日	5分	背部

上圖の通り實行して後、毎日十分間づつ延長して、適應良しければ一時間以上に互つて宜しいのであります。

日光療法は餘程有力なる反應を身體に及ぼすものでありますから。頭部や顔面は、鍔廣の麥稈帽子を用ひて保護することを忘れてはなりません。余は慢性腹膜炎に冬季より夏季に至るまで、規律的に日光浴を應用して良好なる結果を得た實例を數多く持つて居ります。

### 日光の入らざる家には醫師が入る

#### (第四) 安靜療法

結核病に於ける安靜療法は本教則第四位を占める程大切な綱目であります。此の養生法の發見者は獨逸のデトワイレル氏である。之には面白い物語があります。最初ブレール氏が自然療法によつて、結核病は治癒すべきものであるとの福音を傳へて療養院を山村に設け、多くの患者を收容し、其の重症、輕症を問はず、日々の日課として山野の散策や跋涉を試みられたが、偶入院患者の一人たるデ



トワイレル醫師は、體力衰憊の餘り諸人に隨行する事が出来ぬので、負惜みに理窟をつけて、果して新鮮の空氣が療養上に効果があるものならば、無理に山野を跋渉するにも當るまい。宜しく適當の處に坐臥して、自由に豊富に新鮮な空氣を呼吸すれば事足る道理だと發意し、輕便な寢臺を工夫し山麓、川畔任意の所に持ち出し、靜臥を續けて居りました處が、驚くべき事には散策患者よりもより以上の好成績を得たので、結核病の治療には空氣療法と安靜療法とを兼ね行ふ方が効果は更に偉大であると信じて、後自ら小療養院を新に設けて靜臥空氣療法を一般患者にも施した處、先師たるブレイメル氏の療養院よりは遙に優良であつたので、ブレイメル氏も遂に兜を脱いで之に賛成したといふ挿話があります。實に安靜即ち動かざる事は治療の轉歸を與ふる機會であります。例へば關節結核病にギプス繃帯を施す之に窓を作つて日光療法を行へば、百中百パーセントは好結果が顯はれる。申す迄もなく之は絕對安靜が完全に行はれるからであります。

之に反して絕對に安靜を施すことの困難な喉頭並に腸の結核は、其の結果が之に及ばないの理由は、是等の部分は絕對安靜が出来ぬからであります。肺臟は比較的安靜を守ることが出来ますから、好成績が擧るのも當然である。余は安靜を次の通りに區別して説明する方が却つて分り易いと思ひます。

### 安靜の區別

- (一) 身體安靜
  - (1) 絕對安靜
  - (2) 普通安靜
  - (3) 安靜中の運動
- (二) 病竈安靜
- (三) 精神安靜

## 第一 身體安靜



(1) 絶對安靜は終日終夜床の中に居て、成るべく臥位の變換即ち、寢返りも少し、素より兩便も便器によつて褥中で取り、總ての刺戟を避け、食事を攝取するにも緩々と咀嚼し、面會も讀書も談話も絶對にしてはなりません。本法は高熱の患者、急性進行する病勢、咯血、血痰の場合に應用するに適當と思ひます。

併し乍ら二箇月以上も續く時は食慾不進、神經過敏等から不動性の衰弱を來し、抵抗力を減退する等種々の心配がありますから、宜しく病狀の模様により取捨選擇の要があります。

(2) 普通安靜は前項の病狀より稍軽い程度の場合に應用すべきもので、食事兩便の時の起床、少時の談話、讀書等を許しても差支無いのです。

(3) 安靜中の運動は安靜が主で運動は客となる意義であります。どこまでも安靜が本である。即ち輕症、無熱の患者又は恢復期の患者が以上の軟療法から稍

々硬療法に移らうとする場合に應用します。畢竟身心の動靜を規律的に且つ有意義に勵行するのが目的です。通常食後二時間位床上に横臥休息す。素より病症及體質に應じて午前午後三十分乃至二時間位まで、其の時間適當に加減して戶外新鮮の空氣中（風なく塵埃の揚らざる日）を逍遙せしむるを以て、次第に抵抗力を増進して安靜の時間を短くし、反對に動作時間を長くして、健康時の動作に導いて行くのです。固より放埒な嬉戲或は高聲の談笑等は禁物であります。總て靜臥中は原則として睡眠してはなりません。余は實驗上午睡は良しくないと思ひます。

## 第二 病竈の安靜

結核病竈組織の變化は恰も火傷の如く初め充血炎症を起し、次に水泡狀となり



遂に破壊状態に陥るのである。以上の變化を起すものでありますから、病氣の在る所を働かせぬと云ふことが治療上の必要條件でありますから、肺病なれば肺の呼吸運動緩徐。咳嗽の鎮靜。言語少くして低音。心臓動作の冷靜。上肢運動の制限、食物嚥下運動の緩徐等は、病氣の比較的安靜を維持するものです。之に反して深呼吸（岡田式）、呼吸體操、水泳、舟漕、登山等其他心悸亢進を促す諸因等は肺運動を亢進させるものでありますから、大々的に禁物であると心得なければならぬ。

### 第三 精神安靜

精神の安靜は總ての安靜中で一番大切な要件の一つであります。床中に靜臥して身動もせず、絶對安靜を完全に遂行して居ると云ふ患者の中にも、余が視ますと床の中で踊をしたり、獨り角力を取つたり等して居る様に安靜の出來ぬ患

者が多數あります。之は心の安靜が出來て居らぬので、少しも効驗が現れぬのであります。

解剖生理學的に肺と心臓とは兄弟分の關係がありますから、精神の不安は必ず心臓の鼓動を増し、肺へ循環の血行が速進せられ、随つて患部に充血や鬱血等の刺戟を與へ病竈の安靜を破壊し、經過を不良ならしむるのであります。

夫れ故に常に精神修養によつて無念無想の境涯に入るべき様心掛が肝要であります。詳 細は精神療法の方に述べます。

私はこれを譬て『體は石の地藏尊で心は不動尊でなければならぬ』と申して居ります。

### (第五) 榮養療法

我邦人の生活状態は社會階級や地方の習慣や西洋食に支那料理に其の上好き嫌



ひもあるので、頗る複雑にして、其の標準を示すことは困難であります。況んや病者の食事選擇に就ては尙一層六ヶ敷きことは云ふまでもありません。栄養學の泰斗佐伯博士は人の食物の要件は、其の分量よりは其の性質に、十分注意せねばならぬことを力説せられて居られます。

元來日本人の男の腑は大抵平素より大食の癖がありますから、胃は擴つて居る。そこで『モウ』十分で満足したと云ふことは、満腹と云ふことであつて、其の食物の栄養量が足りたと云ふのでない。例へば風船玉を吞んで外から空氣を送つて膨らせた様です。其れ故其の食物の性算に身體維持の上に必要の物質分量が永い間、不足が續きますれば、栄養消耗に因する病が起ります。殊更肺病患者は昔から癆症と名けて、消耗羸瘦が病の本態であつて、癆病大食とか、喰ふ程瘦せるとか云はれて居りますから、食事療法に必要なことは何人にも了解せられてをります。

然らば人類一日に要する栄養物は幾何なるかと申せば栄養學者の標準は約蛋白質二十五勿含水炭素(澱粉類)百勿、脂肪十勿及び無機質少量ビタミンであります。丁度之が二千五百カロリーに當ります。

普通健康人が中等の働作をして一晝夜二十四時間に十五貫目位の男子にして二千五百『カロリー』を要することに定めてあります。『カロリー』とは熱量の單位です。一『リートル』即ち約五合の水を攝氏一度丈け温度を高める熱の力を云ふのであります。諸の食物により、其の『カロリー』を計算したる食物表が出来て居りかすから、對照すると能く分ります。

茲に一患者あり。自己の生活を維持するだけに、假りに二千二百『カロリー』を必要とし、其の上に病氣を治癒せしむるに必要量を五百『カロリー』とし、尙ほ是まで病氣の爲め消耗せられたるを補償すべき量、即ち羸瘦たせる體質を恢復せんとするには、少くとも三百『カロリー』を要するとせば、合計三千カロリ



以上(いじやう)の食物(しょもつ)を攝取(せつしゆ)せねばなりません。其れゆる滋養(じやうおほ)多くて消化(こなれ)し易く、吸收(きふしう)量(りやう)多い物質(ぶつしつ)を撰擇(えんたく)することが肝要(かんえう)であります。元來(げんらい)人類(じんるい)には天與(うまけつき)の本能(ほんのう)がある。現代人(いまのよのみこ)から見れば、極めて幼稚(あうち)であつた原始民族(げんし)でも、又未開(またひらけな)の生蕃人(せいばんじん)でも、身體(からだ)に適應(たごひ)せる食物(しょなつ)を探り、寧ろ文化(ぶんか)を誇る人(ひと)より榮養(えいやう)状態(じやうたい)も良くて健全(じやうぜん)であり又長命(またながいき)であることは事實(じじつ)と信じねばなりません。余(わたくし)は此(こ)の點(てん)が最も肝要(かんえう)であると思ふ。現在(いまのよ)の人は左(ひだり)の缺陷(けつじやく)があるやうに考へられます。

### 第一(だいいち) 食物(しょくじつ)に餘り人工(じんこう)を加へ過ぎる事(こと)。

現代人(いまのよのみこ)は天與(うまけつき)の食物(しょくじつ)に只管(ひたすら)に人工(じんこう)を加へ過ぎて、其(そ)の養分(やうぶん)を減少(げんじゆ)せしめる嫌(きら)いがあります。例(たと)へば米(こめ)は餘り搗(た)き過ぎ、野菜(やさい)は餘りに皮(かわ)をむき取り、肉類(にくるい)、魚類(ぎょるい)は煮(に)、焼(や)きが過ぎるため、生物學(せいぶつがく)的(てき)の妙趣(めうしゆ)たる生きたる細胞(さいぼう)を人工(じんこう)的に破壊(はくわい)死(し)滅(めつ)せる物質(ぶつしつ)を攝取(せつしゆ)して榮養學(えいやうがく)的(てき)には物質分量(ぶつしつりやう)に適應(たごひ)するも其(そ)の物質(ぶつしつ)の活力(かつりき)を減(げん)殺(ころ)せるものと思はれる。例(たと)一(ひと)は人工(じんこう)的に人乳(にんじゆ)や牛乳(ぎゅうじゆ)を作り、其(そ)の成分(せいぶん)としては

自然(しぜん)の乳汁(ちち)と少(すこ)しも相違(さうゐ)なきも、到底(到底)育児(いくじ)の目的(もくてき)を遂(と)げることは叶(かな)はざるものと信じます。當今(たうこん)『ビタミン』なる發見(みつけ)せられ其(そ)の缺乏(けつそく)より生(しやう)ずる病氣(びやうき)等は正(ただ)しく食物(しょくじつ)に餘(あ)りに人工(じんこう)を加へ過ぎる害(がい)であります。そこで半搗(はんた)き米(まい)や刺身(さしみ)なぞの良(よ)き事(こと)は了解(わ)せられます。

而(しか)し傳染病(でんせんび)毒(どく)又は寄生蟲(せいじちゆう)等(とう)感染(おそれ)の虞(あや)ある場合は消毒(せうどく)は勿論(もちろん)であります。けれどもも其他(その他)の場合(ばあひ)には自然(しぜん)の食物(しょくじつ)を尊重(そんじゆう)して、餘(あ)り人工(じんこう)を加へないことは必要(ひつやう)と信じます。

### 第二(だいいち) 食物(しょくじつ)に對(たい)し好き嫌(すききら)ひせざる事(こと)。

食物(しょくじつ)に對(たい)し好き嫌(すききら)ひある人はかなり多くありますが氣(き)の毒(どく)であります。此(これ)等の人(ひと)が一朝病氣(いちぢやうびやうき)に罹(か)れば、一向層難澁(いこうじやうなんじやく)の事(こと)で、さういふ人(ひと)は其(そ)の上食物(うへしょくじつ)に對(たい)し飽(あ)き易(やす)い癖(くせ)があります。兎角(とかく)吾儘(わがまま)の多い人(ひと)にこの種類(しゆるい)の者(もの)が多くありまして榮養物(えいやうぶつ)を攝取(せつしゆ)する上に甚(はな)だ損(そん)であります。去(き)る大正十二年(だيشんくわい)の大震火災(だいしんくわい)の際(をり)には何人(だれ)で



も、外國米や、玄米の粥を喰つた。その事を忘れずに平素より能く心掛けて此の弊害を矯正したいものであります。

### 第三 食物は第一の口たる胃腸の消化吸収に氣を付ける事

食物の目的は第一の口に嗜好や味覺を感じて満腹する而已ではいけません。第二の口なる胃腸の消化機關に吸収せられ身體組織の養分となるのでありますから、口腔内には歯牙の完全により咀嚼の丁寧、胃腸管の健全が大切です。肺病患者の多くは歯牙の發育不良また齶齒が多い様です。それで先づ齒科醫の診察が必要になります。次に『ヂャスターゼ』が生れて、胃病患者が増えたやうな氣がします。之は少々は飲き過ぎても喰ひ過ぎても『ヂャスターゼ』があるからと安心して、不攝生をする結果であると思はれます。また消化の働きは精神官能にも關係すること偉大でありますから、特に食物に對し常に不満不平は消化力を減殺します。注意すべきことです。

諺に『遠慮して御馳走になるとも身に付かず』誠に味はふべき語であります。

永井博士の

#### 上等献立の例

朝食七時 米飯三椀 味噌汁一杯 煮豆小皿 焼海苔 杯 鶏卵一個

澤庵二切

朝お八つ十時 牛乳一合 水菓子(林檎、梨、バナナ、蜜柑、龍眼肉の類)

晝食十二時 米飯三椀 牛肉鋤焼一人前(或は西洋料理一皿)

甘煮(小芋、獨活、白魚、慈姑、百合根、豌豆等)

吸物(鯛或は鱈の切身、青味、鹽汁)漬物、味噌類(鯛味噌、

金參寺)

晝お八つ三時 番茶(又紅茶)パン菓子二個(カステラ、葛餅の類)

晩食六時 米飯三杯 刺身一人前(鮪、鯛、比目魚の類)



漬物 (菠稜草、水菜、芹) 菓子椀 (魚肉鱧、豆腐皮、青味) 漬物

(新香)

夜 食 牛乳一合 鶏卵一個を入れ此の時肝油の少量 (三グラム乃至五グラム)

元より此の献立は皆食盡さないでも宜しいのです。 計五千六百カロリー。

普通献立の例

朝 食 米飯三椀 煮豆 味噌汁 漬物

朝お八ツ 牛乳一合 落花生少量 (約二十粒)

晝 食 米飯三椀 豚カツレツ一皿 (馬鈴薯、サラダ付)

晝お八ツ 番茶 或は片栗湯一杯砂糖 (レモン入ビスケット十個)

晩 食 米飯三椀 薩摩汁大椀一杯 (牛肉 或は豚肉、小芋、牛蒡、人蔘 葱味噌) 酢の物

夜 食 牛乳 バタ付焼パン一切、肝油。

計三千二百カロリー

食慾のある丈に成るべく澤山に食するは良けれども、毎日同一のものは飽きま  
すから、取替引替色々工夫して調味を都合よく付けて病者の目移りする様に氣  
を注ぐは肝要であります。

牛乳は一日二合迄、鶏卵は二三個迄、肉類は一回三十匁位、刺身は一人前で  
宜しくあります。

### 第六 精神療法

大昔から肉體の病氣が醫藥を用ひずして、治療せられた場合が少くない。それ  
は精神的慰安と心機(こころ)の轉換とである。例へば、印度の釋迦牟尼佛、猷太の基督、  
又我國では弘法大師、見真大師、日蓮上人等が衆生濟度の爲めに鼓吹せられし精



神の轉換と信仰の力とに依つて、諸病者の治療せられた事跡は史上に明かである。是等の精神療法は斯る大聖人でなくても、宗教的安心は勿論、祈禱又は催眠術に於ても或程度までは成功するものです。のみならず、相當信用あり、良醫師の稱ある人から到底見込なしと見放された患者が、全治したと云ふ宣傳や廣告だけでなく、不可思議の神秘作用があるもので、實に精神作用の肉體の原始細胞に及ぼす効果は之を宗教的に云へば、眞に信仰の妙趣であると信じます。

之に反して、病氣は左程重患でなくとも、精神が不安不信なる場合は、同様に不可測の悪影響を引き起し、間もなく全快すべきものと信せられた病も、頓に重患となることがあります。大正十二年の驚天動地の大地震にも、余の療養院に入院中の患者五十餘名の内、重患者兩三名の外は、患者自ら外園に避難しまして、一人の負傷者さへ出さざりしは、實に天祐として喜んだ次第であります。余が精神作用の患者に及ぼす影響の偉大なるを體驗したのは、震

災後患者の容態の激變であります。一般に體温は下り、食慾は増進し、輕中度の患者は震災の爲めに全治せるやの感を懐かしめた者も尠くなかつた事です。之は申す迄もなく、患者の多くは、病に對する豫期感念が作用し、寢ても醒めても、病氣!! 病氣!! と煩悶し懊惱せる結果眞に病毒の肉體に及ぼす害よりも、精神作用の肉體に及ぼす害の甚大なる證據でありまして、一朝震災と云ふ精神的轉換作用に依つて病苦は全く腦裏より脱離せられた結果であります。

英國の名醫ライト氏の發表に依れば、人體には喰菌現象の作用がありまして、血液中の白血球が微菌を喰取する有様及び其數が比較せられてあります。されば大谷博士及び、大阪瀧寺の療養院長故石神氏等は之を實驗して曰く、結核患者が治癒すると信ずる精神的安靜時と、同一患者で到底治癒せないと思ふ精神的不安時との血液を攝取して、比較検査をして見ると、精神的不安時に於ける白血球の微菌を喰取する數量は精神的安靜時に比して其作用が半分であつたとかいつて



居ます。實に結核患者の豫期的心勞は、恰も毒藥を飲むが如き害毒あるものであります。されば、患者が初めて醫師の門を叩いて診察を受け、肺炎川答爾又は肺結核なりと診断せらるるや、患者は直に死の宣告を受けた如くに感じ、顔色は忽ち蒼白となり、動悸は高まり、脈は増え、眼は血走り涙さへ浮べて氣息奄々、今にも死神に誘はれ行く如くに感じ、煩悶苦惱するは常に實驗する所でありますから、治療すべき方法手段を懇切に説明すべきが當然であります。而して醫術醫藥と共に精神修養と宗教的安心とに依つて、治療せしめることが必要であります。之を要するに、宗教的信仰に據つて安心立命を得、生死を超越して不生不滅の境地に到達せんか、之に勝る延命術は無く、これも又疾病回復法であります。佛教の釋迦牟尼佛が萬乘の王位を捨て、遁世し進んで難行苦行せられしも、此不生不滅の涅槃を得んが爲めでした。又基督が猶太の刑に觸れ十字架上の露と消えんとする時、『吾れ死せず、吾れ蘇る』と絶叫せられし事實は、萬代不磨の回

天の力あるものと信じます。

茲に余の病院に入院した結核重患者が恢復して退院の際呉れました手紙を掲げて参考に供へましょう。

噫先生、私は愈々お別れしなくてはならぬ時が近づきました。其時に當つて私は御前に出て永く御世話になつた御禮と御別れの御言葉とを交す悲しみに堪へられません。恁ぞ此苦痛を御免下さいませ。

思ひかへせば私は一日片時、忘れ難き家族に離れて、茲に六ヶ年の淋しき星霜を夢の間を過しました。否決して淋しくはありませんでした。夫は先生の慈愛深き家族的な生活に依りて、總べての精神上の苦しみを慰撫する事が出来ましたからです。そして是は他の病院に於て得られぬ患者の幸福であると思ひます。随分私に我儘を申上げて相濟みませんでした。左記は私に此病院を去るまで、束の間も念頭を離れざる一事であります。話が十分廻りますが、私に瀧頭町に居て水害に遇つて、再び入院する時からの事でありませぬ。

其時先生の云はれるには春心館(輕病室)に空部屋があるにも拘らず、今度は靜温館



(重病室)でない部屋はない。而して附添をつける様にご申されました。私は癪に觸りました。少々言葉が亂暴になります。先生怒ちやいけません。元私が春心館を退院する時までは静温館は多く重症患者を收容したる所である。ハハア、此親父め、私が二月や三月で斃ると思つて居るか。今に見る。見かへる様な體にして、静温館の記録を破つて見せるから覺えて入らしやいと實際其時はさう思つたのでした。いや、今日までも其心持は決して忘れた事はないのです。併し今になつて考へて見れば先生の云はれた事は無理はありませんでした。釣臺で身ぎ込まれて看護婦に抱かれて漸く寢臺の上に横たはつた體ぢやありませんか。私は自分の病氣の程度から考へると恠しても既に三年前に此世の人ではなかつたのであらう。今は餘命を保つて居るのであると思惟つて居ます。此の餘生は何に依りて得られたのでせうか。即ち前に申上げた先生の苦言を唯一の力を與へて、我病氣を全快させなくては止まぬ、又或程度までは自力に依つて必ず癒さなくてはならぬと云ふ固き信念が病氣に打勝つ事が出来た。爲に愛兒の悲しき別れにも動ぜず、我境遇に満足して毎日を楽しく愉快に暮らした事が、私を今日あらしめる原因であると思ひます。そして今から八十九十までも生きる心持で居ります。併し定命過ぎて

餘命なれば、何日死が襲ひ來るをも決して恐れず又未練もありません。何か私の退院後の養生法につきては決して御心配下さいますな。そして遺憾なく御教訓を嚴守する事も御認め下さいませ。終りにお互に笑顔を交しつゝお別れする事は私の豫想外の喜びである事を大に感謝致して居ます。是は御別の御挨拶にかへて私の存念を聊か書いた次第でありますから何か其の御積りで御覽を願ひます。かしこ。

院長様

某女

此の手紙の主は東京の中産階級の細君でありました。某博士の診断の結果、肺結核の重症者で家庭には二人の愛子がある。若し愛子にまで傳染したら、實に一家の不幸であると云ふので、余の療養院へ入院せられたのです。其間、家庭とは全く交通断絶せられて居ましたが、既に遅し、其長女なる十六歳の娘は腸結核となり、東京で十分治療を受けたと云ふのですが、病氣は益々増進するばかりなので、娘も亦余の所に入院させて呉れとの功なる願ひてした。入院させる



父親に對しては同情に堪へませぬが、余は院長として母子諸共に一所に加療するは心苦しいからと申しましたら、兩親共覺悟はして居る、是非共頼むとの事故、承諾を與へ、而かも母親の病室の隣室に思ひ切つて收容しましたが、殘念ながら娘は經過不良で遂に黃泉の客となりました。此の際病母は常に愛子の枕頭に侍して満足なる看護せられしにも係らず、少しも病氣に障りもなく此の悲境にも動せず、自己の重病にも打勝つて恢復せられし事は生死を度外視して大覺悟と忍耐より得たる賜なりと信じました。

又余自身も二十四歳の時、山龍堂病院院長樫村清徳博士の診察の結果、正しく肺結核と診断せられました。一時は歩行さへ困難となりましたが、其後大に覺りまして大井町光福寺に籠り、専ら精神修養と自然療法と對症的藥物の應用とに依つて漸次回復し、遂に全治しました。殊に療養院設立の時には體重拾貫八百目でしたが、今では全く健康體となり爾來十年間一日も病氣の爲め臥床した事は

ありませぬ。

されば、私は根岸療養院を創立せし當時より、入院患者に安心立命を鼓吹する方針として、二大生命論を唱道しました。二大生命とは、一は五十年と云ふ限りある肉體的生命で、一は精神的無限の生命であります。通常私共は肉體の生命のみに固執して居るのですから命に掛替がないと信ずる爲め、一朝病に罹れば直に死を豫想し、齷齪として痛苦に痛苦を重ねて一層病を重態ならしめる。然るに、釋尊とか基督とかには無限絶對の精神的生命の掛け替を持つて居られた彼の武門の鑑とも稱せらる、楠公父子の如き、又日本國民の花とも歌はれた赤穂義士の如きは共に忠義と云ふ不死の生命に據り安心立命を獲て居た事と信じます。

余の如きも結核病患者救済と云ふことを第二の生命として努力して居るものであります。

之が私の偽らざる告白であります



以上により精神的覺悟が肉體上病氣治療に影響することの偉大なることが大概了解せられた事と信じます。

之を要するに、絶えず病氣、病氣と煩悶せる心を空氣、空氣、安靜、安靜等の療養法に轉向せしめて、體質改善を圖られる方に自分の全精神を傾注することが肝要であります。

### 全治の近道は安心立命

### (第七) 藥物療法

既往數千年の古より今に至るまで、凡そ結核病ほど多種類の治療薬を持つて居る病氣は、他に其比類を見ないと云つても宜しいのです。

是は畢 竟するに結核病に對して、特效薬が未だ發見せられない證據であります。然らば特效薬とは如何なるものを云ふかと云ふに、『チフテリ』症に『チブテリ』血清、マラリア病に『キニーネ』、梅毒に六〇六號等を云ふのであります。如上の病氣には其れ以上の特效薬の發見はありませんし、又必要もないのであります。之に反して結核病に對しては雨後の筍の如く、次から次へと新薬が出たり、自稱特效薬が生れ、其れが晨に出てたかと思へば夕には消えて、其名を記憶するに違がない有様でありますから、結核新薬と稱するものは容易に信用する事は出来ませぬ。

獨逸のコツボ博士が結核菌を發見せられて以來『ツベルクリン』療法が生れました。即ち舊、新、再新、無蛋白ツベルクリン、其の他『ローゼンバッツハ』のツベルクリン、我邦にては石神氏、百瀬氏、志賀氏等のツベルクリン、又コツボ氏の菌乳劑『フリードマン』の龜の結核菌等治療劑が幾多續出しましたが、遺憾ながら未だ彼



岸に達せられませぬ。

又消毒薬或は殺菌薬の目的の許に内服薬として石炭酸昇汞水、サルシル酸等の製剤百に垂々とする程も患者に使用せられ、体内に存在する結核菌を直接に滅滅せんと企てられたが是も失敗に終りました。

然らば化学的療法は如何にと云ふに金、銅、亜硫酸等につき研究せられて居りますが、中々成功の曙光は未だ認められませぬ。

民間薬に就ては『水蠟虫』、狼把草、大蒜煙草、犬の油、縞蛇等も實驗して見ましたが斷じて有効ではありませぬ。

次には滋養強壯劑として、ソマトーゼ、カルピス、ザナトーゲン等の滋養強壯劑の効力を結核病と因縁を結び付けて吹聴して居りますが、賛同する事は出来ませぬ。其れは漁村に居て鰯の罐詰を食し牛乳搾取所に於て『粉ミルク』を飲む様な不條理であります。食欲の有る患者は榮養療法に説明した通り、外に迷ふの餘地

はありませぬ。

然らば結核病に有効な薬物は全然無いかと云ふに大に然らずです。吾々醫師の方には對結核薬の多きに寧ろ選擇に迷ふと云ふ程薬物の種類があります。併し前に述べた様に皆何れも身體内で直接に結核菌を死滅することの出来る徹底的な薬物ではありませぬが、間接に作用して、遂には病毒を駆逐して、大に有効なる薬は澤山あるのであります。例へば古くより應用せられ、今も尚ほ其眞價を墮さないものに『クレオソート』がある。之は少くとも肺に於ける結核菌には間接に働く効果あることは疑はれませぬ。殊に適當の量を用ふれば消化を促進し、胃腸内の異常酸酵を抑制し、同時に一度腸より吸収せられたる『クレオソート』の一部は瓦斯となつて肺臓を通じて呼吸の中に出で來ます。此の間に結核菌に一種の作用を遂げるものであると思はれます。そこで余は『クレオソート』は治療上最大有要の薬劑と信じます。次には先き頃まで流行していましたが、カルチウム劑も血液及び組



織中のアモーバ状運動を爲す細胞を刺戟して喰菌現象の力を高め、又消炎の作用を營みます、(余は常に少量を内服するも可とします。靜脈内注射は時により危険あると認めます) 又砒素劑及び沃度劑の如きは結核病菌の周圍に血液を多量に輸送し此の部の榮養を良くし以て結核菌の病原的作用に對抗する作用を遂げる効があります。其の外對症的としては、安靜療法の一部で述べた如く病竈の安靜は治病方針の要點でありますから、咳嗽を鎮靜して、肺の比較的安定を保つ鎮咳藥、熱を抑制して、身體の消耗を防ぎ、且つ精神を爽快ならしめ、傍ら食欲を進むる制熱藥、咯痰の咯出を容易ならしむる祛痰劑は呼吸困難の減弱を謀る。盜汗を防いで疲勞を輕からしむ止汗劑。健胃強壯劑に依つては胃腸の機能を旺盛にする結果、榮養を恢復し、抵抗力を向上し以て戰鬪力を増加し、直接正面攻撃よりも寧ろ搦手方面より躍進して、彼れ病魔を阻止制御し遂に結核菌をして自滅若くは無毒に陥らしむる威力あるものであります。此の理により藥物療法も大切な要件

であつて、而かも容易に實行し得可き事である。さりながら世の中には無益の長物視して單に自然療養のみに依らんと主張する學者もありますが、一考を要するの價値もないと信じます。

併しながら各種藥品の選擇及び應用上の諸注意の適否は治と不治との分水嶺であることも能く考慮するは勿論であります。

尙ほ注意すべき事は歐米は元より本邦に於ても、結核治療合成劑の發表が時々見えます。

是等の合成劑は結核病の諸症候に對應する藥品を打つて一丸と成した物であります。一例を挙げれば解熱藥も鎮咳藥も消炎藥も強心藥も合せて一劑と爲し作りたものであります。夫れ故合成劑中の或る藥品は時として或る症候に對症藥として有効に働くとも又或る時には有害として作用する場合もあると思はれる。何となれば有熱のとき又は咳嗽時には解熱鎮咳藥は有効として働くも、一定の期間服



用の後、幸に下熱顛咳せる場合には有害となり、其の上薬物に對する習慣を作り、再び應用する時には其効力を減少或は消失せしむるの虞あるものです。余は今回既往二十五年間の血を涙との貴き實地經驗と約二十五萬人治療成績とを基礎として、結核病の五大症候に對應して極めて適切有効なる錠劑をT・O錠と命名して希望者に分與することに致しました。

### 薬劑の効力は應用の妙手にあり

#### (第八) 攝生修養

諸大家の結核病に付いて攝生法の著書も澤山あります。又余の以上述べました療養法も一般的のものでありますから、必ず千人は千人、萬人は萬人に適合するものでありせぬ。本症は千差萬別病症の顯れ方は差ひますので、修養せられた

る事を自己の病症に對應する點を選択して誤らざる様に、忍耐して實行せらるゝ事が要件であります。しかし實行とは云ふ事は曰ふべくして行ひ難いのであります。夫については昔し話を申上げませう。

昔し或る山寺に四人の僧が一室に閉ぢこもつて、七日間の無言の行をする約束を附しました。一人の小僧だけは自由に室内に出入させて、いろ／＼の用を足させた。

ところが夜がだん／＼更けるにつれて、燈が暗くなり、今にも消えさうになつた。末席に坐つてゐた僧は、それが氣になつてしかたがないので、うつかり口をきいてしまつた。

『小僧早く燈心をかき上げてくれ』

隣に座つてゐた僧が聞きとがめて

『無言の行に口をきくといふ事があるか』



第二座の僧は二人ともに規則を破つたので不快でたまらない。

『あなたがたは』とんでもない人たちだ。

三人とも物を言つてしまつたので、上座の老僧は如何にも勿體らしい顔つきをして、

『物を言はないのはわしばかりだ』  
といつた。

右様の次第で、實行は忍耐と覺悟とが肝要であります。

言ふは易く行ふは難し

(第九) 不迷不撓

肺結核病の全経過は西洋の統計に依れば一患者の全経過約七ヶ年間としてありま

す。我國には報告がありませんが、總ての點から考察して今少しく短いと思ひます。余の経験によれば約平均五ヶ年間は要するものと思はれます。此の如く頗る慢性の疾患にも係らず、特殊療法が未だ発見せられませぬから、坊間には其の弱點に乗じて前に申上げた通り、新薬に次ぐに新薬、自稱特效薬に次ぐに特效薬が生れ、その甚しきは醫學並に藥物に對する素養なき全の素人が不可解な物品を持ち來りて、之を宣傳廣告して、相當需用者を得つゝあるは余の不可解に耐へざる次第であります。其の上、加持、祈禱、巫、呪、等に至るまで、誘惑の魔手を遺憾なく逞しうして、我國の保健衛生を攪亂せられるのは眞に憂慮に耐へざる有様であります。恰も窈窕たる二八美人が左の手に盃を持ち右の手に徳利を提げ、街衢を徘徊して、青年を誘惑する有様である、實に病者の弱點としては迷はざるを得ざるも無理ならぬ事と思はれひます。

夫れ故余は當局に對しては製薬並に賣薬廣告取締の勵行を希望し、一方社會に向



つては結核病に對する理解を與へ、又醫師としては當然國民の保健的業務を司る立脚地より理想としては總ての患者は盡く醫師の診療する處とならむる方法例へば醫業の官營制度は萬全の策なるも現代に於ては有効無害の眞に價値多き賣藥並に製劑を發表して從來の賣藥の改良を謀るは目下の急務なることを信じて已まざるものであります。

### 不迷不撓は幸福の基

#### (第十) 共同一致

共同一致と云ふことは本療養教則の第一より第九までの事項を纏めて一團と爲し結核病軍に對抗、進撃を加へ敵壘を陥落せしめる意義であります。結核軍も決して鳥合の兵にあらず、正々堂々秩序ある強敵であります。之に反して攻撃軍には

一氣に病敵を全滅せしむる潜航艇、水雷艇又は三十三インチなどの巨砲がありませんから、少しの味方でも糾合して敵に當る戰略戰術を用ひねばならぬ。ですから其の一部隊を缺いても其れ丈共同軍の兵力を減弱せらるゝ理由を深く心得て居られねばなりません。さうして共同軍が幸に強く、結核軍の力を一分でも、減弱するとせば我軍は一分の強味を得、二分の力を減弱せば四分の勝目を得る、即ち二二が四と云ふ自乘的の勝利を得るものと想像せられます。恰も一家の經濟と同一であります。反對の場合には共同の我軍に大なる損害を招くものと信じて疑ひませぬ。

即ち身體組織の細胞と結核菌との戦は前述の通りに喰菌現象の額を以て決せられる。白血球によりて結核菌減少せば、其れ丈菌の産生毒素減少せられる。産生毒素減少すれば身體榮養の損失は随て少くなります。然れば菌に對抗する白血球の力は愈々強盛となる。その力強盛なれば菌が愈々減少する。菌が減少すれ



ば毒素倍々減少す。斯の如き状態を幾回も繰返せば遂に榮養、體質改善せられ、病毒全く撲滅して凱歌を奏するに至る。之に反すれば榮養、體質倍々衰へ羸瘦骨立悲慘の極に陥る。考一考せらるべし。

元來正しき共同一致は獨り治病上のみならず、一家一國を治めるにも、此の道を踏まねば、安定を保ち事難いは理の當然であります。歴史を緋いて、源平の戦、關ヶ原の合戦、大阪城の陥落、大石良雄の義舉維新の大政復古、日清、日露の戦争、等の結果を観察するに是等は皆共同一致の現實であつて之れなきは衰へ、之れあるは盛える、歴然として太陽の如し。鑑みねばならぬ

### 運動の出来る程度の日課

- 一、毎朝六時 起床
- 七時までに洗面、更衣、身仕度を済す。

- 一、七時より八時 朝食及び食後の休息。
- 一、八時より十時 静臥
- 一、十時 朝お八ツ (時に廢するもよし)
- 一、十時より十一時 庭園逍遙
- 一、十一時より十二時 静臥
- 一、十二時より一時 晝食及び食後の休息
- 一、一時より三時 静臥
- 一、三時 晝お八ツ (時に廢するもよし)
- 一、三時より四時 嬉戲娛樂
- 一、四時より五時 静臥
- 一、五時より六時 徑き逍遙
- 一、六時より七時 晩食



一、七時より八時 讀書、書翰書き或は雑事、整理

一、八時より九時 静臥

一、九時 雑話

一、十時 就床

右の様に大體についてH課を定めて置きましたが、一應はかかりつけの醫師に診察をうけて親しく相談して定めて貰ふことが必要であります。

●本書には結核菌並に結核病の症状に就ては詳しい説明をしません。それは病者が説明書によつて自己診断をして取敢苦勞の結果神經過敏に陥らしめて、反つて病症を不良ならしめる恐れがあるから、故らに之を省いたのであります。

## ◎病床の相談相手

病床の友として世間に幾多の良書がありますが、何れも帯には短く、襟には長く、就中家庭の理解を求める著書の少きを遺憾と思つてゐました。私は此の點にも留意して病者は勿論、家庭の人にも良い相談相手となり、時には忠告者ともなる様に、最も必要な點だけを以下十ヶ條に亘つて書いて見ました。

### (一) 病者の慰安

病者の慰安の根本要義は申すまでもなく完全なる治癒です。假令如何に不親切に取扱ひ迫害を加へても、速に治癒さへすれば、病者は必ず満足して感謝するものです。之れに反して如何に親切のあり丈を盡くしても速に癒らざれば不平



を訴へるのが常であります。之は人情で致し方のないものですから、醫師や看護人は或る時は神様以上に敬意を拂はれたり、又或る時には乞食よりも以下に誹謗されます。

私が壯年時代東京に於て某病院に奉職の時若い婦人が横症を患ひ、治療を求めに来ました。診察の結果既に化膿せる故切開手術の外治療の途がない、そこで患者に手術のことを如何に勸諭しても恐れて應じませぬ、同僚の醫師連は何れも閉口して困つてゐました。二三日後丁度私の手術する順番に當りました。私は患者を強ひて手術臺に載せて、手術に取掛らうとしましたが、反抗して出来ない。遂に不得已患者の頰部を二三回毆打しましたら、患者は吃驚して夢幻の状態に落りました。そこで早速に切開を行ひ無事に手術を終り歸宅させましたところが、其の家の主人は大に怒つて院長まで抗議を申込みました。私は此の患者は恐怖の餘り手術を拒み且つ局所並に全身麻酔もイふ事が

出来ませぬから、不得已毆打して夢幻状態に陥らしめて手術を遂げた、これは即ち一種の麻酔法で、醫師が治療を委託せられた権限内である理由を徐に能く説明しましたら、釋然と了解されて主人並に患者も大いに満足した事がある。斯ういふ様な急性疾患特に外科の場合ですら、行はれましたが、治療期の長期慢性疾患は右様の單一の方法では満足な結果を與へることは出来ませぬ。要は眞の同情と愛護であります。

明治四十年頃横濱の或銀行に奉職して居つた某青年は不幸にも六七年間肺結核症の罹つて居ました。余は永く之を治療しましたが、此の青年は『キリスト』教の信者で眞面目の人格者で頗る評判の良い青年でした、父母は貧苦の間にも拘らず、献身的に看護もし、慰安を與へられました。不幸にも道に永眠されました。其臨終に當りまして、多くの牧師さんや其の他信友に頗る血もあり涙もあり眞に價値多い訓話を遺されました。余も死の五分間前に醫師並に看護者に對



する病者としての所感を尋ねました。其の時にすべては「眞の同情」であると答へられて余の手を取り彼が常に愛讀せる「パイブル」を遺贈されて瞑目しました。余は亡君の臨終の際此の教訓を今日まで片時も忘れたことはありません。私は慢性の疾患中最も長年月の治療と多額の経費とを要する此等氣の毒な患者と家庭とを忌避し、之を迫害し之を疎外する有様を見聞することに眞に悲痛の情に耐へぬものであります。かゝる悲惨の一家にはあつく同情し之を愛護し之を慰安する様に一般社會に宣傳する事は私輩の任務と思ふと同時に病床慰安の方法の一であると信じます。

全國の多方面の之れ等の人より私の手許へ事情を告白せる通信が澤山まゐつて居りますが、今其一書を茲に掲げて御參考に供します。

手紙

根岸療養院長

大村民藏先生

某男

一面識もなき私が突然此の書を致す無禮の罪は何卒お救しの程をお願いします。私は婦女界の三四月號誌上、先生の御高見をお伺ひして益々思慕の念を抑へる事が出来ず、遂々此の書を送ることを決心したので御座います。

私は當年二十四歳の男で官吏を勤めて居りましたが、昨年一月執務中略血して發病へ否、病氣を發見したのでした。その時東京の某病院に入院して治療を受けましたが、輕症の故でもありませんでしたが、四月には退院を許されたので、知人のすゝめに従つて相州七里ヶ濱の某療養所に轉地したのでしたが、すぐ呼び戻されましたので、以後は自宅で靜養してゐました。(療養教則は先生の一致してゐました。)幸ひ病氣は順調に恢復して、無然の狀、態が五ヶ月もつゞきましたので、ほつと一安心してゐた折にも折、感冒の爲め發熱四十度近く二週間もつゞきましたから、病氣は忽ち逆轉してしまつたのです。その時私はすく上京して診察を受けたかつたのでしたが安靜を第一としてゐる此の病氣ではそれはとても出来ませんから、不取敢附近の開業醫の治療を受けて居りました處が、病氣は遠慮なく進み只今では七度二三分位まで發熱することも御座います。そして喀痰等は殆んど無かつたのが今では二十回位まで出るやうになりました。私は殘念で殘念でたまりません。



それもこれも矢張り私の油断から来たものですから、誰を怨む事はありませんが、私は此處に一切の恥を暴け出してお話し致します。

私の家では十五人の家族(他人を合算すれば十七人)だったのでしたが、老衰でバタ／＼と爺嬭二組が死に始めてからその子が死ぬと云ふやうにして今日では八人家族(それでも一家としては少くはありませぬ)となりました。その間度々災厄の爲め少からず財政が疲弊して來ました。折も折り私も斯かる難病に罹りましたので、所謂泣面に蜂の螫目を見たのです、でも幸ひ兩親のみつしりとして居りますので、出来るだけの手を盡して呉れましたが、一日拾圓近くの費用が入る某病院に間誤付いておてはたまりませぬ。少し位の財産は忽ち消えてしまひます。それでも兩親としては半年位で働けるものと思ひ込んで居りましたので、嫌な顔も見せず、費用を調達して呉れてゐたのでした。處り病氣の逆轉と來ては流石の兩親も手を拱いて考へ込んでしまつたのです。今までは私には秘してゐた家政の事もすっかり聞かされて、私は吃驚仰天してしまつたのです。先生が婦女界で病人に金の心配をさせては治療上宜ろしくないとおつしやいましたがあつた、くその穿つた御觀察に思はず涙を流しました。けれども物質の不自由に迫られてはごうして安閑さして居られませう。老いた母が町へ野菜を賣り出しに行く姿を見送る度、濟まない濟まない云ふ

心に胸がはり裂けるばかりです。やつと母の手によつて治療費へ三十圓づゝ調達して貰ひ、貧窮なから薬價及び栄養に充てゐるので御座います。

私は今斯うした悲惨な境にあるので御座います。それもこれも前世の因縁とあきらめればそれまでの事ですが、私にはごうしてもさう思ひ切つた事は出来得ないのです。何にも私はこんな病身で生きたくはありませぬけれども、ごうしても私は生きてゐなければならぬのです。それは私が長男だから家政を整理しなくてはならぬと云ふそんな事ではありませぬ。それは私の爲に今まで苦しんで下された兩親殊に母は半病人になつてゐるのです。私が死れば母は狂氣するに決まつてゐます。それに此れから世に出る可愛い妹や弟の前途を闇にしてしまひます。何處でも肺病は怖れてゐますが、私の村では極端に怖れ、家族に肺で死んだものでもあれば、もういくら財産があつても寄りつかなくなつてしまひます。まして私等の如き貧乏人は益々厭はれ(それも病人だけなら仕方ありません)人並の事は出来なくなつてしまひます。私の爲に貧乏した上、社會から厭はれましたら、之れ位可憐な事はありません。私も一時全快に近づいた時は近所隣でも噂が止まつたと思ふ間もなく、逆轉となるや又々いかにがはしい噂はバツさひろがつてしまつたのです。こんな噂が私の耳へ入るたび私は齒を喰ひしはつて口惜しがりました。今に見ろ治



つて見せるからさ斯う思つては見ますが、私の家政の狀態では聲東ないと思はれます。  
私はいうしている考へて來ますと、どうして好いやら分らなくなりませう。父は何事もあきらめて坊主になれと此の頃申しますが、安静を必要條件とする此の病人がどうして坊主になり得ませうか、是れは死を待たせよと云ふ事を暗に示してゐるのでありませう。けれども先生！私は前にも申上げたやうな一家の興亡に關する大切な身體であります。(物事にでなく)それに度々鏡に映して見る私の顔姿の生々とした一寸と病者の如くでないのを見ますと、あきらめるには餘りに情なく思はれるのです。

前述のやうな事情から私はごんな事をして、生きねばならないのですが、私も考へに考へ切つてしまつて、もう他に途がなく迷つて居るので御座います。父は何んかして病氣さへ治つて呉れらば家の事なんか、やらねでも好いから何處か篤志な病院でもないかしら等と申しますので、私もいろいろ考へた末はやはり先生の御義侠心におすがりして見るより外はないと決めてしまひました。随分厚顔ましい奴だとお叱りなされるで御座います。考へぬいた末恥も外聞も忘れて此の手紙を書いたので御座います。どうかお察し下さるやうお願い申します。亂筆の點は嚴重にもお詫び申上げます。

大正九年五月

某

## (二) 早期診断と造物主の話

本病は早く氣が付いて早く治療すると、早く治療することは間違ひはありません。西洋の結核學者ツルパン氏などは、一ヶ月内に發見したならば、百中九九、九だけ癒る。それが六ヶ月になると六十七に減る。六ヶ月以上になると四十、二に減ると云うて居る。實際は是よりもう些つと成績が良いと思つて居ります。そこで早期診断と云ふことが必要です。早く診察を受けて治療するは獨り本人の爲めのみならず、國家の上から傳染を防ぐことが出來て最も幸福な事でありませう。偶々健康診断の折、發見した者は、成績が非常に良いのです。兎角此の病氣は初め少しも痛苦を感じませぬので、自身で氣の付くのが遅れ勝ちになります。咳や痰が出て其の上身體の不和を感じるときには相當進行した場合です。指の先に針



を刺したら、裁縫は出来ませうが、三味線弾きなら三味線が弾けませぬ。足の底へ棘を刺したら郵便配達人は痛むで歩行は出来ませぬから直に知れます。それで治療するなら二三日にて治癒します。然るに手や足よりも大切な器官しかも生命に關はる肺に針よりも幾萬倍と云ふ太さ程の變化が起つても容易に分からぬと云ふことは、人類を造り賜ひし神の大なる陷穽であると信じましたから、或る日深山の奥に、造物主の神の門を叩き、右様の理屈を述べて談判をしましたところ、神の仰せには、汝誤りて誤りて希望の如く人の肺に病を知るが爲め痛苦を興へる様に造れば、人類は發熱又は其他の病氣ある毎に呼吸困難を起し窒息の爲めに死滅するものである。例へば指趾の知覺過敏の如くに人類繁殖の器官たる子宮を作りなば、分娩の際、産婦は必ず痛苦に堪へず死するものである。故に神は醫學を作り早期診断法として、理學的診断にて熟練なる醫師には其の識別を許し、又ビルケー氏の皮膚反應カルメット氏の眼試験喀痰の顯微的鏡検査、血清診断法尙

ほレントゲン（X光線）の診断等によつて、明かに知り得るを以て、人類は平時に於て常に熟練なる醫師に就て、健康診断を受よとの御託宣であつた。そこで私は唯々として平身低頭辭して歸りました。

眞に神の仰の如く『レントゲン』即ちX光線の應用により、未だ肺臓の浸されざる前に必ず肺門淋腺や、氣管支腺に病毒が入つて腫れて居る状態が透視することが出来ます。此の際十分治療せば百中百まで治癒するものです。然るに腫たる淋腺を其儘にして置きますと、病毒は遂に待ち切れずして肋膜なり肺なりに浸入するのであります。私は多數の入院患者を『レントゲン』寫眞を取つて研究しましたが、其の中に面白い一例を茲に紹介致します。ある患者の兄弟に肺病患者があるので、健康診断に來たのでありますが、診察すると、右の肺門腺が腫れて居るやうに私の觸診に感じました。（千里眼否千里手にならなければならぬ。）そこで『レントゲン』の寫眞を取つて見ると、



肺門腺が非常に腫れてゐるのであります。直に治療を致し半ケ年間位にて再びレントゲン寫眞を取りて視ますと腺は縮小して治癒して居りました。之に依て私は此方法を塚原ト傳の劔法から名付けて無敵流と稱して居る即ち劔を抜かずして敵を降伏せしめる譯である。菌が肺を侵さぬうち即ち淋沍腺の腫れて居るときに豫防もし治療をもすることが、最良の方法であるといふ事である。

### (三) 病名を知らしむる利害

現今では國民の衛生思想が餘程進歩しましたから誤解が少くなりました。是までは急性傳染病などでも、公衆の迷惑になることが澤山ありました。肺病に於ても初め醫師の門を叩き診察を受けます前に、附添人は先生若し肺のわるいのでしたならば本人には秘密にしてください。本人が非常に悲觀して尙一層

悪くなりますからと申します。醫師もその切なる依頼に已むを得ず同意して、慢性氣管支加答爾とか、肋膜炎とかの、病名を下して、一時姑息的の安心を與へる。醫師ありとせば患者自體は肺患たるを知らざるゆゑ、完全なる養生をする決心が無いマア。此位のことには宜からとも云つて往昔經過する内遂に不良に陥り最早取り返しも付けられぬに至り、患者は憤慨して、醫師も家族も迷惑する事實が往々あります。

私は大正四年より大正八年までの五年間治療せる多數患者の中より六百四十六人を選択して、病名を宣告したものと、宣告せぬものと、及び血痰略血によつて自覺せるものとを區別して統計表を作りました、其れに就て説明致します。

#### 表一

肺門腺腫瘍の病名を宣告せぬものと、及び血痰略血によつて自覺せるものとを區別して統計表を作りました、其れに就て説明致します。



第一表

比較的初期ニ病名ヲ宣告セラレシモノ

百分率	合計	年齢										成績		
		計		四十歳以上		四十歳マデ		三十歳マデ		二十歳マデ			十一歳ヨリ	
		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
四〇、二三八、三	八四	二八	五六	三	三	五	八	一五	二八	五	一七			治
三八、三	八〇	一八	六二	〇	六	四	二	九	二八	五	一六			良
七、二一〇、〇	一五	一	一四	〇	〇	〇	一	一	八	〇	五			不變
二一〇、〇	二二	五	一六	〇	二	二	三	一	八	二	三			不良
四、八	一〇	三	七	〇	一	一	二	〇	二	二	二			死
	二〇九	五五	一五四	三	二	二	二六	二六	七四	一四	四二			計
			二〇九		一五		三八		一〇〇		五六			合計

第二表

略血并血痰ニヨリ自覺セルモノ

百分率	合計	年齢										成績		
		計		四十歳以上		四十歳マデ		三十歳マデ		廿一歳マデ			十一歳ヨリ	
		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
一四、六三三、三	二一	六	一五	〇	一	一	一	三	九	二	四			治
三三、三	四八	八	四〇	〇	一	三	六	五	二	九	〇	四		良
一一、一一	一六	二	一四	〇	一	〇	四	一	七	一	二			不變
二二、二一八、一	三三	四	二九	〇	二	二	四	一	三	一	〇			不良
	二六	四	二二	一	二	〇	二	一	五	二	三			死
	一四四	二四	一二〇	一	七	六	一七	一	七三	六	三二			計
			一四四		八		二三		八四		二九			合計



第三表

経過中病名ヲ宣告セラレモノ

年齢	成績		治	良	不變	不良	死	計	合計
	男	女							
十一歳ヨリ	〇	〇	〇	三	二	一	三	六	五
二十歳マデ	〇	〇	〇	五	七	三	一	一〇	一五
三十歳マデ	一	一	一	二	八	三	三	一〇	一五
四十歳マデ	一	一	一	四	三	一	一	五	一〇
四十才以上	二	二	二	六	三	一	七	一六	二一
計	二	二	二	一七	二八	一〇	一五	五五	七〇
合計	三	三	三	二二	三三	一四	一六	五五	七〇
百分率	三、一	三、一	三、一	二四、八	二二、三	一五、二	二二、二	二九、三	二九、三

右三表に依て比較しますと初期に己が肺病たるを知りしものと、其れより後に知りしものとは、其の治療成績に偉大の差違があることが明であります。即ち治療に於て十三倍死に於て七倍の差が出来ました。然るに何を苦んで病氣あるのを知らしめないでせう。

病名を知らしめる事は單に一時の悲観だけです。それも能く親切に懇篤に治療すべき理解と一大覺悟心とを與へれば、患者は釋然として大なる勇氣と希望とを抱いて笑顔を以て感謝するのは私の實驗の常です。患者に病名を知らせることは一力には當然吾々醫師たる職責であり、家族としては患者に對する親切であると思ひます。

己の病を知るは病に克つ秘訣なり



#### (四) 家庭の理解

本病に罹りし患者の家族が豫防法や看護法に理解も同情もなき家庭ほど病者の悲惨なるはなく、加之公衆衛生上にも迷惑甚なからぬ事實を實見します。二三の大例を掲げますと、細君が入院して居ても主人は仲々見舞に來ませぬ。偶々來ても急ぎで歸る。主人が入院して居ても同じく細君は家事や小供の教育に假託し、看護婦に任せきり、深切に看護するものは稀であります。甚しきは自分の愛子に向つて實母が廊下に立ちながらお前は親に孝行なら早く死んで呉れよと云ふ文句を聞きました、私は憤慨に堪へず該の母に懇篤訓誨を加へた事もあります。況んや骨肉兄弟に至つては赤の他人よりも情があります。又嫁を貰つて其の夫が本病に罹ると里方の両親は離縁を申込み看護者のなきにも係らず直に連れ歸る嫁が患へば離婚問題が起る等、實に種々なる悲劇の實例が澤山あります。之等の

原因は先きに恐怖時代に於て述べました通り、肺病に理解なく、只管恐怖の缺陷であります。教育勅語の御聖旨にも戻る恐怖の次第であります。

かゝる中にありて茲に誠に麗るはしき話を申し上げます。某工學博士が米國留學中不幸にして本病に罹られ歸朝後私の根岸療養院に入院せられました。その夫人は滿二ケ年の間一日の如くに實に献身的の看護を盡されました事は余の拙なき筆に叙べる事は出来ませぬ感嘆の外はありませぬ。次は某銀行員の細君が入院せられた時、其の夫は療養院に寄宿せられて、院より銀行へ出勤せられ、夜間も瞬時の暇も餘所目も嬉れしき程の看護を與へられました。

之等の方は完全なる消毒の下には傳染せずとの堅い信念から努力せられたることと信じます。

米國に於て家族に結核患者あるときは、直に結核豫防協會に通報して本病に關す



した。之等の人は公衆衛生上の重罪人であります。  
左に家人の無理解に悩まされた人の手紙を挙げてこの項を終ります。

拜啓 晩秋の折柄先生益々御清邁の趣奉大賀ます未だ御目にかゝりたる事もなき不肖よりかゝる御手紙差上ぐる事幾重にも御許下さいませ。……然るに妻の里方の無理解は言辭に絶し、病患の私に對するにあくまで壓迫と迫害とを以てし、終に妻を連れ去つて音信を断ちました。私の今日迄の苦勞はやがて水泡に歸し、克己心は忽ち折れて、慘苦に加ふるに慘苦を以てし、幾十度か東奔西走して圓滿なる解決を遂げんものと試みましたが全て失敗に歸しました。……

根岸療養院の事は本春来しばしば妻にも話し人にも語り来りましたが、新聞雜誌によりて皆よく承知して居りました。根岸へくゞ度か慕ひましたが、今日までその機会がありませんでした。……

大正十一年十一月

某 男

根岸療養院長  
大村民藏先生御膝下

る幾多の書籍を取り寄せ、主婦は家族と共に食事毎に集りて之を研究して、豫防法を勵行し、患者には満足なる慰安と看護とを加へます。又社會事業發達の賜により社會より相當の保護を與へられます。眞に到れり盡せりであります。

余が療養院經營中英、米國の貴婦人達は時々來院せられ、可憐の患者に親しく慰安と同情とを寄せられたにも係らず、我國の貴婦人達は一回も訪問せられた事はありませぬ。門前通行の際『ハンカチーフ』で鼻や口を蔽ひたる奇妙奇態の『タ イプ』をして美服を着けた貴婦人らしいものを折々見受けました。

一家の主人公が本病に罹る事と其の家族が患ふとは家庭傳染上に何れが多いか、何程の違ひがあるか、余の實驗より述べますと、主人の患ふ方が家庭傳染が多 いやうです。是は主人のある意味の横暴の結果と思ひます。其一例は或る上流家庭の主人公が本病に罹りました。看護せる奥様に自分の喰ひ残しの食物を無理に與へて曰はるゝには、私しが死ねばお前は此の世に用なき人ではないかといひま



おちぶれて袖に涙のかかるとき

人の心のおくぞ知らるる

(五) 有卦の話

人世の生涯中には何に人でも、一度は順風に帆を揚げて奔る様な有卦と云ふ機会があります。有卦とは有氣とも書きます。陰陽家の説にて人の生年を干支に配して、定めたる幸運の年まはりで、この年まはりに當りたる人は、七年間吉事が續くと申します。其の時を逸せず心締りの人は何事業も成功が出来ます。丁度歐洲大騒亂の際、商工界は非常な景氣で、有頂天になり、豪奢を極めたものであります。かやうな景氣はいつまでも續くものではありません。其の後經濟界の逆轉

が來ましたら一と溜りもなく、將棋倒に破産して悲慘の境遇に陥りし實例は多數ありました。

慢性結核病者の經過は丁度此の調子と同じやうに、經過良くて、治癒に向ふ場合が一度は必度あります。其のとき最早大丈夫とか宜からうと云うて自分勝手に速断し、學生なれば通學、女子なれば結婚問題、其他各自の業務に就くことが早ければ不良なる生活環境、又は妊娠分娩等の支障により、再發でなく逆轉して、前よりも却て不良となり、如何とも致方なく遂に匙を投ずるの悲境に陥る實例が多數あります。病が有卦に入つた時が最も注意を要する大切な時期でありますから、信頼する主治醫との相談と尙余の後に述ぶる治癒時期の算定とを参考として誤まらない様になさるべきである。

浮世を渉るには何人でも必ず一度は不可思議な怪物に出會ひます。此の怪物は髪を前に垂れ帯も前に締め人に向つて來るときは緩かにして容易に捕ふる事が



出来ませんが、一朝之を取逃せば、奔ること速にして捕ふることは一生涯尋常の努力では出来ませぬ。之は機會と云ふ珍らしい怪物であります。又運とも申します。皆さん之を捕へたらば、逃さんやうになさい。其の妙法は忍耐心と覺悟心とです。しかし此の運も棚から『牡丹餅』のやうに迂濶に待つて居つても駄目です。

### 勝つて兜の緒を締めよ

### (六) 治癒時期の算定

肺結核症の治癒とは如何なる場合を云ふか。此の治癒の状態より幾何の期間を経れば、全くの治癒として安心して健康時の動作を爲して間違ひなきかと云ふ間は、緊要なる一つである。是ガ克く理解せらるれば、前項の逆轉の不幸より免かるる

ことが出来ます。

元來肺結核症の治癒の問題に就ては詳しく説明したる文献を見ませぬ。本病は他の疾病とは全く趣きを異にし、其の治癒時期の算定は相當困難なることと考へられる。隨て各自標準を異にして、専門家に於ても頗る矛盾の點も尠くありませぬ。併しながら動物試験や屍體解剖等の所見には組織上より結締組織細胞の増殖に因る纖維性結締組織新生(癥痕組織)の有様や石灰變性の形成等にて明らかに治癒を認識せられますが、症候上よりは余は多數の實驗にて次の様に標準を定めて居ります。

即ち脈膊七十内外、呼吸数は十七八至、體温攝氏三十七度以下、咳嗽、咯痰全く消失、盜汗停止、食慾増進、榮養、體重健康時に恢復、心身共に爽快にして、何等の違和を自覺せざるものにして、診査には理學的、化學的、顯微鏡的、X光線にも病的としての異狀全く消失し(但し治後の組織の變化は致し方なし)た



るを恢復状態と稱へてあります。此の状態が少くとも三ヶ月乃至六ヶ月引續きますれば、之を假りの治癒期と見做します。次で假りの治癒期の状態が満二ヶ月間引續して、精密の診査にも異常なきときは初めて全くの治癒として餘り間違ないものと信じます。

此の二ヶ月と云ふ数字の據る所は、醫學博士故守屋伍造氏の試験管内に於ける結核菌の生存期間は十五ヶ月乃至十八ヶ月なりとの報告に依り、私の既往十數年間に假りの治癒として退院患者の消息の調査により標準を立てたもので、大要間違ないものであります。

尙此の二年間は抵抗療法として衛生的職業、即ち植物園の如き手傳を普通人の十分の一より始め次に十分の三、十分の五、十分の七、十分の十と割合により、漸次其の動作を増して遂に自己の職務に就かしむるを最善の方法と主張します。之を例へば茲に一坪位の庭園があります。或る人より此の庭園に發生せる雜草を

抜き取つてくれよとの依頼を受けました。私は是の雜草を肉眼の及ぶ限り取り盡して返しました。然るに其の人は最早普通の事では草は再び發出しませんかと問うたとします。その時私は此の土壤の中にある草の種が残りたるや否や、如何なる方法でも分りませぬ故、ある時期をお待ちなさい。即ち來年の春光に芽が發出しなければ、大丈夫と思ひますと答へる外はありません。

### (七) 體温の糶賣

結核病の體温の高低は疾病經過の大切なる羅針盤でありますので、醫師も患者も非患者も一喜一憂は之れによりて左右せられます。それ故療養書にも尤も重き注意の一として説明せられ、随つて之れが養生法として絶對安靜が極端に書き立てられてありますから、患者側も熱に對する恐怖心が嵩まりまして神經過敏に陥り僅か一二分の體温昇騰にも、病倍々進行せるものとの強迫感念に馳られ、一日



に數十回となく體温器を使用し、假りに攝氏三十七度一分ありとせば、忽ち杞憂して直ぐに計ると、此の度は三十七度二分に騰り、倍々不安心次いで三、四、回尙ほ其れ以上に計り續けて、遂に三十八度以上にも昇騰せる滑稽を演ずる神經性發熱の例を、幾度か實驗します。之れを私は體温の糶賣り申します。

此種の患者の中には不正の檢温器を使用して、體温昇騰せるものと誤解せるもあり。又檢温時間十五分乃至三十分も腋下に挿入して、皮膚面の摩擦等により昇騰せしめるもあります。

元來傳染病の症狀なるものは、其の病魔と肉體との戰の證據であります。此の戰によつて病原體に對應する抗體といふものが發生して、漸次に病魔を撲滅して治癒するものであります。

例へば腸チフス患者が三週間も四週間も高熱が繋留して治癒するも、此の抗體發生の賜であります。而も治後「チブス」に對する完全な免疫性を帯びて再び罹ら

ないものであります。

近頃傳染病に對する豫防注射法は此の理により案出せられ、病原體の少量を熱或は藥物又は血清にて毒力を弱め、人體に注射して免疫を計るを自動免疫法と稱へて行ひます。此の豫防注射でも攝氏三十七度二三分より七、八、分まで稀には三十八度以上の反應熱が起るものであります。若しも反應熱がないならば完全な免疫體の發生は疑はれます。

結核病の發熱に於けるも同一の理で、毒素の反應に外ならぬのである。此の反應も又治病上有意義のものであります。固より攝氏三十八度以上の體温が持續する場合は勿論榮養體質を不良ならしめ、衰弱疲勞を來し、病に對する抵抗力を減弱せしめるから最も注意すべき事ですが、攝氏三十七度五六分位の熱にして氣分も變らず、食慾も減退せず、痛苦も感知せざる程度ならば余は寧ろ之を恢復熱、治癒熱、安心熱として患者に大なる安心の暗示を與へます。そして攝生を勵行すれ



ば一ヶ月間に一分つゝ下降して、遂に攝氏三十七度以下に降れば経過頗る佳良にして逆轉の虞もなく、完全に治癒した實驗尠くありません。要するに本病は他の病の如く、容易に病原體の殲滅が出来ませぬから、急に下熱することも困難です、其れ故持久的に療養せらるゝと同時に、徒に神経過敏に陥らざるやう心を注ぐは緊要であります。

茲に甲乙二人の患者がありました。共に攝氏三十七度四五分の體温昇騰の爲に神経過敏に陥り、戦々競々として數日間所謂絶對安静を守るにも係らず下熱せず、如何して可なるかと恐れまごひます。私は之を診査しまして、甲には病竈に活動性の疑あるにより、之には眞の安静療法を懇篤説明し、乙には絶對安静の必要を認めざるを以て、毎日一回五丁程の散歩を命ぜりましたところ、乙は二三日間で攝氏三十度以下に下降しました。右は私の入院患者の實驗談です。熱に對する修養も亦大切であります。

### (八) 咯血の談

十數年前冬の或る日早朝より雪は半日降り頻りて、一面銀世界と化せし折柄、根岸の里より横濱市内に通勤せる一青年は、此の途上にて突然豫期せざる大咯血をして此の白皚々たる雪上に純紅なる血液をしかも多量に咯出せる光景は慘又慘誰でも驚きます。彼の青年は驚愕の極殆んど喪心せん斗の間にも勇氣を奮つて、私の診察所に辛うして診療を需に參りました。私は直ちに治療を與へて彼れに如何に大咯血なりとも恐るべきものにあらざる事、寧ろ君の如き體格偉大榮佳良なる者は自分は勿論他人も斯る肺患あるを夢にも知らざるに、此の咯血の爲に初めて之を知り得て、將來十分の療養すべき機會を教へ賜はりしは神の思召にして彼の幸福なる事を、懇篤説明を加へ、尙ほ咯血時の心得並に一般肺結核症の療養法を説諭致したるに、青年は釋然として悟り、心も落ち付き動悸も治り、幸に咯



血も止りました實驗があります。

咯血に際しまして醫師の來るまでの手當は、患者を仰臥又は半仰臥の位置に置き、肉體特に精神を安靜にし、心臟部及び出血部と思ふ場所に氷嚢を載せ、濃厚食鹽水を「コップ」一杯位服用せしめ、全く無言の行をなさしめ、咳をするにも緩かに静かに、飲食は冷たき流動性のものにして、徐々に嚥下せしめます。大咯血の時には四肢の軀幹に近き部を緊縛して肺臓を貧血ならしむる法もありますが、三十分時以上に涉つてはいけません。

茲に余の咯血に關する感想の二三を述べます。

(一) 元來咯血といふものは身體表面の出血とは事違ひ、肉眼や手の先きの働きの及ばざるところでありますから、外科醫の血管結紮、ガーゼ、繃帯又は膏藥料創膏等の手當は屈きませぬ、即ち直接止血術はありません。内科醫師の治療法としても、前記の方法の上に幾多の注射藥、内服藥あるも、之れ又間接に作用する

のみでありまして、絶對的のものはないのであります。

それ故咯血に對する患者の恐怖感念は心臟の動悸を高め、尙ほ咯血を來すの虞があることは恰も「ポンプ」を壓搾して「ホース」の先きより水の噴出を止める様な理合です。患者の不安は最も注意すべき要點であります。

私の實驗では肺患者の末期にして空洞ある者の外、大咯血によりて不幸の轉歸を取りし例はありません。決して心配なき事を説明するは必要であります。

(二) 手や指に僅かな負傷しましても、直に消毒ガーゼ、繃帯にて、外物との接觸を防ぎ、細菌の侵入を防ぎますが、肺臓は前陳の通り繃帯が出来ませんので、常に外氣と交通して種々の病原菌を吸入するの虞がありますから、尤も此の點に注意して新鮮なる空氣を選び特に塵埃を防がなければ、肺炎症状を起しますから病室は決して箒塵拂など用ひず、昇水、石炭酸水、等にて清く拭ひ取られたし。

(三) 咯血後の安靜期間は二週間とす。咯血中は無論のこと、咯血が止まり血痰に



なりまして、絶對安靜は必要であります。血痰が全く止つて後ちも二週間は繼續して安靜を行はなければなりません。其れは筋肉を負傷して縫合手術を行ひても、第一癒合期は一週間目です、尙ほ一週間を経ざれば繃帯は取れませぬ。此の理より推して二週間は是非必要であります、此の期間より早く動かして再三再四度失敗した例がある、急げば結局損失であります。

### (九) 不眠と巫呪

睡眠は疲勞の薬で疲勞は睡眠によりて醫せらる。疲勞多ければ随つて睡眠も多きを要する理であります。本病は常に安靜を保ち疲勞少きにより、睡眠も健康時に比して少くても支障はありません。一晝夜間に四時間乃至六時間安らかに眠れば十分と思ひます、其の寝る時は午後十一時頃より翌午前四時頃まで即ち夜半が一番大切の睡眠時である。其の他の時に眠るのは餘り良いとは考へられませぬ。健

康者も同一で、夜業的の業體者の非衛生的なる事は明かであります。夫れゆえ病者に於ても、夜半の睡眠を克く爲す事にしなければ、疲勞は恢復しませぬ、又睡眠は習慣となり易いものでありますから、朝寢、午寢、早寢を爲さずして、早くも午後十時頃より寝る規律を守らるべし。

睡眠を妨げる行爲、例へば平易なる書籍、小説本、圍碁、將棋其の他此等に類する遊戯は、不眠を來す原因となりますから、避けねばなりません。私の實驗に依りますと本病患者の多數は不眠症に陥つて居ります、其の主なる原因は病に關する煩悶で、此の煩悶を救ふことが出來ぬならば不眠を醫する事も出來ぬ理であります。然るに世の中には之を醫せんが爲に、藥物を用ふる人があります。即ち「カルモチン」「ズルホナル」「プロムナル」等の催眠薬甚しきは「モルヒネ」「阿片等の麻酔薬を與へ、又は患者に之を教へて服用を自由氣儘に委せるに至つては慎しむべき事です。患者は遂に習慣癮を作り、慢性中毒を起します、不幸の極と信じます。



私は之等の不眠の人には親しく診察の上不眠を來すべき疾病なく、睡眠を妨ぐる病があらぬときは、藥劑を與へる必要もなく、睡眠の出來ざる理由もなきに  
より「自分でお眠りなさい」と嚴かに申し渡します。  
例へば日清、日露の戦の時、出征の兵士が初めて戰場に臨むときは、小銃や大砲の音が耳に響いて一睡も出來ませぬが、追々慣れて心も落ち付き度胸も据れば「鐵砲枕で眠むられます」といふ様なものです。私共も汽車の中で克く坐睡が出來ます。

睡眠の出來る巫呪は

各自信仰する神佛に默禱し眞の信念を以て邪念邪想を拂ひ除け無念無想の域に入り、無我の觀念を維持せば自然と華胥の郷移にます。

### (十) 療養費の問題

衣食住の生活難に襲れても健康に障るではありませんか。況んや病氣に罹つて醫療の資に煩悶することは眞に同情に堪へません。

人は持病の器であります。いつ何ん時病に侵されるか知れませぬから、平素より心掛けて収入の一分を衛生費として特別積立法をしなければいけません。この積立あれば惜しげもなく病の爲に支拂が出來ます。元來吾が國民は一般に豫算的の生活法を立てない風習があります。假令相當の資産家でも診療費を支拂ふことは餘計なものでも捨てるやうな氣を持ちます、甚だ不用意の事と言はねばなりません。夫れゆる資力の有無に拘らず、病者は日々の費途に遠慮して、養生をする心持は針の山にでも臥すると同様に考へ安心立命が出來ませんから病の治續にも影響を及ぼすと思はれます。



本病の全経過は前にも述べた通り、平均五ヶ年と致しますれば、少くとも三ヶ年間の療養費の用意をせねばなりません、現在に於て療養するには三つの方針があります。第一は入院療養、第二は轉地療養、第三は自宅療養この三者に於ても利害得失の點が種々の點より相違します。第一の入院療養は氣候、設備、治療、教導の上に就ては最善を盡されてありますけれども、食物慰安の點には缺陷なしとは申されません。さりとて轉地、自宅療法は餘り自由が出来過ぎて兎角之を悪用するの弊害が起り、又豫防消毒も十分に行はれませぬから、入院療養は總ての點に於て、患者の採るべき方法であります。

さらに私立療養院へ入院加療するにせよ直に感ずるものは金の問題と云はねばなりません、茲に私立療養院入院費の概算を取調べますに

### 療養院入院費概算表

種別	費目	期間				合計
		一日分	一ヶ月分	一ヶ年分	三ヶ年分	
甲	入院科	五、〇〇	一五〇、〇〇	一、八〇〇、〇〇	五、四〇〇、〇〇	六、四八〇、〇〇
	小遣費	一、〇〇	三〇、〇〇	三六〇、〇〇	一、〇八〇、〇〇	
	派出看護婦	三、三〇	九九、〇〇	一、一八八、〇〇	三、五六四、〇〇	
乙	入院料	三、〇〇	九〇、〇〇	一、〇八〇、〇〇	三、二四〇、〇〇	三、七八〇、〇〇
	小遣費	五〇	一五、〇〇	一八〇、〇〇	五四〇、〇〇	
	派出婦	二、三〇	六九、〇〇	八二八、〇〇	二、四八四、〇〇	
						八六、二六四、〇〇

但シ表中派出看護婦ハ一日給料二圓五拾錢食料八十錢の割

派出婦ハ一日給料一圓五十錢食料八十錢の割



其他、社會事業として入院料を要せざる療養院は市立肺療養院、日本赤十字社の委託患者收容所、濟生會病院等

宗教的にして實費を徴収するものは白十字救世軍經營の療養院。

轉地療養費は各人の關係により費用の概算を定めることは出来ませぬ。

借壹萬圓余の銀行預金を以て療養費に充當せらるゝ方は何に等の申分はありませぬが、中産階級以下にして、一人の療養費の爲に壹萬圓と云ふ大金を安すゝ

と支出することは到底不可能にして、其の半金の用意すらないのが普通であります。

昔し扁鵲醫聖の「重財輕身者不<sub>レ</sub>治也」との金言は本病には云ふべくして行ふ能はざる贅言になります。

動もすれば一殺多生の放任主義に陥ります、國民の保健上由々敷大事で有識者の考慮を希望して止まざる次第であります。

然らば現在に於て療養の目的を達しまする唯一の良法は私の考にては同情ある専門醫に就て赤裸々に捻出せる金額を告げて治療期間を豫測して貰ひ、如何なる方

針が最も必要なるやと懇談して其指揮に信頼し迷はず進行するのであります。

私の實驗に依りますと、初めに多額の費用を徒費し、半ケ年か一ケ年にならざるに既に費用の大部分を費して究境に陥る弊害が多々あります。

此等の弊害は初め半ケ年か一ケ年も療養すれば治癒するものと思ひ違ひもあり、又一つは虚榮

心より初め入院するとき二等か三等で十分療養出来たにも係らず、特等、一等に

入院する不心得からもあります。私は療養院經營中常に其の財力を聞きて、等級

を選定致しまして、半ケ年を一ケ年と云ふやうに療養期間の延長を圖つて上げま

した。

茲に多年經驗せる療養方針を参考までに書いて見ませう。

(一) 私立療養院入院療法

初より適當なる療養院を詮衡して入院し治癒に至るまで療養するは最善の方法

であります。



(二) 一時的私立療養院入院

療養院最善の目的は單に治療するのみではありませぬ。療養教則を指導教育する場所としてであります、言を替へて申さば療養の講習所であります。此の講習を終れば自分の療養も誤らず、他人にも傳染せしむるの迷惑なき知識即ち豫防法を會得せらるゝものと認めて宜敷いのです。此の理により一期を三ヶ月とし、出来れば二期六ヶ月、入院は必要であります。

(三) 全く私立療養院入院の出來ざる人

専門家の經費せる呼吸器病相談所に就て親しく療養教則の説明を聴き、又は療養書にて、間違なき觀察をして實行する事です。疑しい點は幾度も相談所に行き相談をなされる事が緊要であります。

本書は此の意味に於て實驗を基として活用便ならしむ爲に、著述いたしました、それが私の赤心であります。

(四) 二三に該當る患者は北に山を負ひ、南は海に面し、風少い氣候の變化も少い温暖の土地即ち理想的衛生地帯に於て一戸を借り受け、悠々自適起居して適當なる對症藥を應用して療養せらるゝを良策とす、此の場合には咯痰其の他の消毒は勿論他人に迷惑を感じしむる行をしてはなりません。

五二、三、四ともに實行の困難なる患者は社會事業たる療養院に入院せらるるが得策であります。

此の社會的事業の療養院に入院せらるる各位に一言します、此等の患者の中には兎存癖み根性を起して如何に親切に看護せられるも不満不平を抱かれる事は治病上に不良の影響がありますから、治療を受けて居るとの觀念を全く脱却して克く院規を守られ、安心して療養なさるるやう希望致します。

終に臨みて結核病の豫防法並に療養法に就て鄙見を述べて識者の批判を乞ひます。

(一) 社會事業として結核患者を收容する植物園を設立する件



「健康を保全する最良の方法は自然と親しむにあり」とは、古來識者の唱道する所でありました。肺結核患者にありては殊に然りと致します。されば茲に社會事業として植物園を設立し、本病恢復期にある患者を收容し、之が補助業務に従事せしめたならば、一方には自活の道を得、一方には療養の目的を達せしめ、なほ且つ傳染を豫防する事が出来て、社會上からも、患者個人からも此上となき福音と信します。

元來結核病傳染の時期は決して重病者が床中にある時にあらず、又初期よりも寧ろ恢復期の輕症患者なるを以て之を隔離する方法としても園の必要なる事は論を待たぬのであります。

(二) 私立療養院の入院料を低廉ならしめ容易く入院を得しむる件  
現在の私立療養院の經營を私の實驗より打算すると、總入院料の三分の一は食料、三分の一は俸給三分の一は雜費に充當して餘りはありませぬ。此の計算

は一日平均四十人の患者を收容しての事でありませぬ。若し四十人以下なれば、經營に欲損を生ずる譯になる。そして其の欲損の主なるものは俸給であります。療養所は治療所と云ふよりも寧ろ保養所である意味から、病院制度より徐外例として經營を容易ならしむるも一法と信じます。進んでは尙ほ國家が市立療養所を保護せらるると同様に、傳染病隔離豫防は公益に關する意義より相當の保護を與へ、患者を實費にて入院せしむるの方針を畫策せらるるは最も可なる方法であります。

(三) 生命保險會社が結核患者收容所を設立するの件。  
生命保險事業の目的は被保險者各自が常に健康を増進し、疾病を豫防して長壽を保ち、其の健康の賜より生ずる收益の何分を會社に積立て、此の積立金によりて萬一被保險者中に天死せらるるものはあるときは、之を支出して不幸者の遺族を慰安するのであります。夫れゆへ被保險者の長壽は會社の利益にして又被保



險者の幸福になりませぬ、即ち共存共營の機に外ならぬ、されば被保險者の  
 疾病を豫防し療養を與へ恢復を圖り又は死期を延長して死亡率を少せしめる  
 方法を畫策するは會社の當に爲すべき所で、一つには會社の有利であります。  
 生命保險會社の死亡統計表を見るに、結核死亡率は總死亡者の五分の一に當る  
 の多數を示してあります、ゆゑに生命保險會社の如き財力者にして、本病者の  
 爲に完全なる療養所を設立經營するは尤も機宜に適したものであります。  
 而して療養と慰安と豫防の三者を兼ね行うて 初めて生命保險會社設立の有意  
 義なることを信じます。

本書は倉卒の際、養生法の要項のみを書いたもので、完全なものとは思つて  
 居りませぬ。他日増補する機がありませう。

福は内鬼は外 (終)

大正十四年十月五日印刷  
 大正十四年十月十日發行

實費金參拾五錢



(載轉許不)

著者	大村 民藏
發行者	横濱市根岸町芝生二一四二 大村
發行所	全市全町 大村呼吸器病相談所
印刷者	東京市牛込區鶴卷町四〇五 守田 銀造
印刷所	全市全區全町 守田 印刷所 電話牛込二四一七番



本所は親しく診察の上懇に御談致します  
又往診の需にも應じます

毎日午前（日曜祭日を除く）

横濱市根岸町芝生二一四二

市電 八幡橋停留場 東約七丁  
間門 終點 西約六丁

大村呼吸器病相談所

呼吸器病家庭薬の權威

チヤウ  
錠  
テ  
イ  
オ  
ー

元根岸療養院長 大村民藏自製

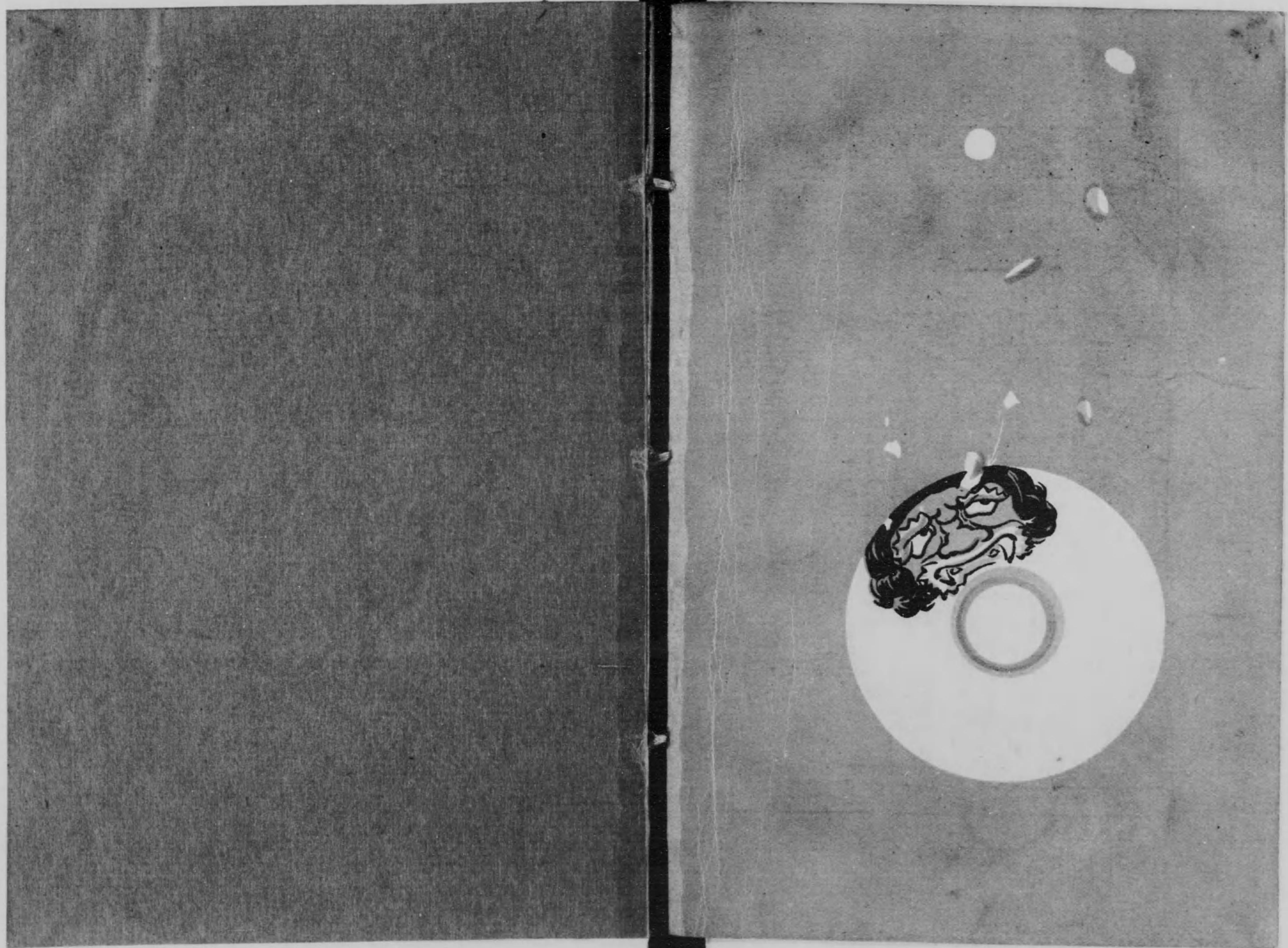
(一)常用薬 (二)制熱薬 (三)鎮咳薬 (四)止瀉薬 (五)止汗強心薬  
T O 錠は二十五年間の實地経験と、約二十五萬人の治療成績とを基礎として調製せる  
自信ある錠劑で、世間並の一薬萬病に靈驗ありと云ふ時代遅れの薬と違ひまして、  
結核病の五大病狀に對應して、五種類に區別し、極めて適切有効の錠劑で、  
現代唯一の治療薬と信じ、汎く呼吸器病患者に推薦します。

▲九十錠入 十日分 金貳圓五拾錢 ▲送料十二錢書留十八錢  
▲百八十錠入 廿日分 金四圓五拾錢 ▲海外 四十五錢

分與申込所 大村T O 錠調製所  
横濱根岸町芝生二一四二  
振替東京七〇三七七









60  
804



終

